

暫定版

区自治協議会(第8期)を振り返って
～成果と課題～

新潟市区自治協議会会長会議

令和 5 年 3 月 1 3 日

はじめに

区自治協議会は、平成 19 年の政令市移行に伴う区制施行に合わせ設置されて以来、「協働の要」として、多種多様な地域課題の解決に向けたさまざまな取組を重ねてきました。

本資料は、第 8 期の各区自治協議会が、どのような地域課題に対して、どのように考え取組を展開してきたか、またその取組の結果・成果・課題などについて記録し次期以降へと引継ぐことで、今後の区自治協議会のさらなる活性化へと繋げることを目的に作成したものです。

地域の特性・事情に応じた各区の工夫した取組が記録されていますので、これからの区自治協議会委員におかれましては、自らの区はもちろん、他区の取組についてもご一読いただき、今後の地域活動の一助にさせていただきたいと思えます。

また、巻末には、区自治協議会の活動・運営における課題について、全委員を対象に実施したアンケート結果と、その解決に向けた各区自治協議会の意見交換概要を掲載しましたので、こちらをご参照いただき、今後の活動に際して参考にさせていただきたいと思えます。

結びとなりますが、区自治協議会委員として、住民自治の推進にご尽力いただいた今期 250 余名の委員の皆さまに、会長会議を代表して感謝を申し上げます。

新潟市区自治協議会会長会議

座長 後藤 岩奈

目次

北区自治協議会

北区自治協議会（第8期）を振り返って・・・・・・・・・・・・ 1

令和3年度北区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 5

令和4年度北区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 8

東区自治協議会

東区自治協議会（第8期）を振り返って・・・・・・・・・・・・ 9

令和3年度東区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 13

令和4年度東区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 16

中央区自治協議会

中央区自治協議会（第8期）を振り返って・・・・・・・・・・・・ 17

令和3年度中央区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 21

令和4年度中央区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 25

江南区自治協議会

江南区自治協議会（第8期）を振り返って・・・・・・・・・・・・ 26

令和3年度江南区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 30

令和4年度江南区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 34

秋葉区自治協議会

秋葉区自治協議会（第8期）を振り返って・・・・・・・・・・・・ 35

令和3年度秋葉区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 38

令和4年度秋葉区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 55

南区自治協議会

南区自治協議会（第8期）を振り返って	56
令和3年度南区自治協議会提案事業 事業評価書	60
令和4年度南区自治協議会提案事業 事業評価書	65

西区自治協議会

西区自治協議会（第8期）を振り返って	66
令和3年度西区自治協議会提案事業 事業評価書	70
令和4年度西区自治協議会提案事業 事業評価書	75

西蒲区自治協議会

西蒲区自治協議会（第8期）を振り返って	76
令和3年度西蒲区自治協議会提案事業 事業評価書	80
令和4年度西蒲区自治協議会提案事業 事業評価書	83

（仮称）各区自治協議会の活動・運営における課題解決に関する

情報共有について（第8期から第9期へ）	84
北区自治協議会	88
東区自治協議会	89
中央区自治協議会	90
江南区自治協議会	91
秋葉区自治協議会	92
南区自治協議会	93
西区自治協議会	94
西蒲区自治協議会	95

北区自治協議会（第8期）を振り返って

北区自治協議会会長 神田 征男

1 はじめに

令和3年度からの第8期区自治協議会は、委員30名中、新メンバーを14名加えてのスタートとなりました。毎月一回住みよい北区のまちづくりに向けて話し合い、地域課題の解決に取り組んできました。

今期は、現行の区ビジョンまちづくり計画が令和4年度で終了するため、次期計画策定のために、令和3年度は「次期区ビジョンまちづくり計画策定 北区自治協議会 ワークショップ」を開催、令和4年度には、「次期区ビジョンまちづくり計画策定 特別部会」を設置し、今後の北区のまちづくりの方向性について話し合いました。北区のまちがより活性化されるためにできることを委員全員で考え、次期計画に反映することができ、区自治協議会委員としての役割も果たせたものと思っています。

部会でも地域の身近な課題を話し合っって事業を行い、地域課題解決に貢献できたのではないかと思います。

次期区ビジョンまちづくり計画施行の年となる令和5年度からの区自治協議会はどうあるべきか、その参考にさせていただきたく、第8期の活動成果や課題などについて報告します。

2 取組内容・成果・課題

(1) 全体会について

ア with コロナ時代にあわせた会議運営

新型コロナウイルス感染症が日本に発生してから数年たち、当初はその対策に試行錯誤する日々が続いておりましたが、昨今ではwith コロナ時代として、現状に合わせたスタイルでイベントや会議等が開催されるようになりました。区自治協議会でも、3年度までは書面開催なども行いながら運営しておりましたが、4年度に入ってから、オンラインでの参加も何度か行い、時代にあわせたスタイルでの開催を試みはじめたところです。

with コロナ時代にあわせた手法での会議運営も視野に入れながら、柔軟に対応していくとともに、対面で深まる委員同士のコミュニケーションも大切に、持続可能な運営を行っていきたいと考えています。

イ 次期区ビジョンまちづくり計画策定 北区自治協議会ワークショップ

令和3年11月25日に、区自治協議会委員23名が参加し、標記ワークショップを行いました。これまでの計画を振り返り、現状と課題を認識し、そこから得られた課題から今後の区の方角性を考えました。

区の将来像に到達するための目標として掲げた5つの「目指す区のすがた」ごとにグループを作り、事前学習をして話し合いました。

主な意見として、「自然環境保全のための情報共有・研究、担い手の育成と生きがいや喜びにつながる自治活動への支援が必要」、「大学生とコラボし商品開発を行いブランド力を高める」、「住民自身が情報を寄せるとともに必要な情報が集約されるような仕組みをつくる」、「高齢になっても安心して暮らせるような地域づくりを行政とともに行う」などがありました。出た意見を参考に、次期計画が検討されました。

ウ 区自治協議会委員研修会の実施

令和3年度は、委員からの要望が多かった「防災」について、地域防災に詳しい新潟大学 卜部厚志教授を迎え、災害時に役立つ知識を学びました。それぞれの団体等に戻った際に役立つ研修会となりました。

令和4年度は、北区の歴史、施設の活用などについて理解を深めるため、閉校した小学校を改装して開館した新潟市文書館を見学しました。

エ 区自治協議会提案事業実施方法の見直し

これまで区自治協議会では、1年単位で提案事業を実施していましたが、より充実した事業を展開するため、実施方法を見直しました。

1年目は、北区の現状や課題を把握するため調査・研究等を行い、その課題解決のために区自治協議会としての取組を考え、2年目に事業として行う、2か年での展開とします。これにより委員一人ひとりが自分事として課題を捉え、課題解決に向けての事業を効果的に実施できると考えています。

第9期区自治協議会から、委員任期の2年間にひと区切りとして、地域の課題解決の一助となる区自治協議会提案事業に取り組むこととしました。

(2) 部会・提案事業について

ア 総務部会

総務部会は、区自治協議会全体の運営、協議内容の検討、区自治協議会だよりの編集を所管する部会です。

全体会の内容を事前に確認し、より活発な区自治協議会とするにはどのようにすべきか検討を行いました。

イ 地域づくり部会

地域づくり部会は、賑わいづくり、公共交通、地域産業、人口減少、空き家活用、防災分野を所管する部会です。

令和3年度は、今まで防災に関心の薄かった若い世代を中心に、防災の基礎知識やコロナ禍における防災などの啓発を目的に、親子参加型事業「親子でわくわく！あそんでまなぼうさい！！in北区」を開催しました。

令和4年度は、令和3年度の実施事業を地域に発信し、希望のあった地域団体と連携して共催形式で2回実施しました。

ウ 福祉教育部会

福祉教育部会は、子育て、教育、医療・保健、福祉分野を所管する部会です。

令和3年度は、誰かにかけていたい言葉、自分がかけてほしい言葉について考える機会を幅広い世代に提供することで、いじめや虐待の防止、引きこもり対策につなげるとともに、思いやり、支え合える関係づくり、地域づくりの大切さを広めることを目的に「『あったか言葉』っていいね」を実施しました。

令和4年度は、定年退職後の人や地域活動に興味があってもなかなか一歩を踏み出せない人が、活動をはじめられるように後押しすることを目的に「応援します、あなたの一歩」講座を開催しました。また、自分の体の状態を確認し、それぞれに合った筋力・バランスアップ運動などを学び、自身の体の健康について考える機会として、新潟医療福祉大学の知識を活用した「行ってみよう大学！あなたのための健康講座」を開催しました。

エ 自然文化部会

自然文化部会は、文化・スポーツ、環境、空き家対策分野を所管する部会です。

令和3年度は、北区の自然の魅力を見つめ直し、区内外へ広く魅力発信するために、福島潟の魅力PR動画の制作、「北区の魅力再発見！フォトコンテスト」を実施しました。

令和4年度は、前年度と同様の目的で、ビュー福島潟名誉館長の遠藤真理さんを招き、福島潟や北区の自然・文化の楽しみ方について意見交換する「遠藤真理さんと語る 福島潟のたのしみ潟（かた）」を開催しました。また、フォトコンテストも再度開催し、昨年度以上にカレンダー作成やSNS発信など魅力発信活動を積極的に行いました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

今期は、「次期区ビジョンまちづくり計画」に関する少人数でのワークショップや特別部会において活発な議論ができました。一方全体会では、「区からの報告事項が多く、人数も多いため意見が出しにくい」、「全員が参加するための工夫が必要」などの声がありました。

新しい体制のもと、活発な議論が行われ、コロナ禍でも多様な手段で地域課題への取組を行いました。

協働の要としてさらなる活動の活性化が図られることを期待します。

区自治協議会提案事業 事業評価書

北区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	目指せ防災力向上！ 【事業費予算900千円】
事業目的・概要	地域の防災活動に対する若い世代からの理解不足が、各地域の課題のひとつとなっている。 こどもと一緒に参加して、防災について触れて、体験して、遊びながら楽しめる事業を通じて、今まで関心の薄かった世代に対し、啓発を行い、地域とつながるきっかけとなることを狙う。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	【親子でわくわく！あそんでまなぼうさい!! in 北区】 日時:令和3年11月3日(水・祝) 午前10時、10時半、11時、11時半、午後1時、1時半 場所:菱風荘(北区前新田乙364-1) 内容:ジャッキアップゲーム、防災カードゲーム、オリジナル防災グッズづくり、水消火器的あてゲーム、バックッキング体験コーナー 対象:中学生以下の親子(各会期4組) 広報:区だより、市LINE、学校、児童施設など公共施設にポスター掲示 参加者:17組49名(事前申込と当日参加)
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<p>○当事業を通じて、今まで防災に関心の薄かった若い世代を中心に、防災の基礎知識やコロナ禍における防災などの啓発が実現できた。</p> <p>○企画立案及び事業の実施については、部会委員からの積極的な意見の発信や、事前研修などを通じて、イベント運営について主体的な取り組んでいたことから、自治協議会提案事業として望ましい形であった。</p> <p>○アンケートを実施した結果、概ね好評であり、事業目的に沿った効果があった。(以下抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めての参加で知らないことばかりでした。消火器もジャッキも触ったことがなかった。 ・親子で防災について学ぶことができ、子どもも非常に喜んでいて、参加して良かったです。 ・どのコーナーもとても勉強になりました。日頃から使えるものばかりなので、子どもと一緒にやってみようと思いました。 ・とても楽しく参加することができました。もっとたくさんの人に知ってほしいと思います。 ・防災の意識が高まったのでよかったですと思います。 ・消火器が楽しかった。またやってほしい。 <p>○事業報告を兼ねたPRチラシを作成し、地域団体等に配布することで、遊びながら誰でも楽しく学べる新しい防災訓練として地域に提案し、当事業での取り組みを区内に波及させていく。</p> <p>○当事業のパネル展を開催し、区民に広く取り組みをPRすることで、防災意識の啓発を図る。</p>
備考	

令和4年3月31日

区自治協議会提案事業 事業評価書

北区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	「あったか言葉」っていいね 【事業費予算 900千円】
事業目的・概要	【目的】 誰かにかけたい言葉、自分がかけられたい言葉について考える機会を幅広い世代に提供することで、いじめや虐待の防止、引きこもり対策につなげるとともに、思いやり、支え合える関係づくり、地域づくりの大切さを広める。 【概要】 家族へ、友だちへ、恋人へ、地域の人へなど様々な対象に対する、思いやりのある言葉、「あったか言葉」が北区に広がっていくよう、幅広い世代に募集する。また、その言葉をSNSや区役所だより、公共施設での掲示など、様々な方法で発信、啓発していく。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	募集チラシを作成し区内小中学校に配布。そのほか区内公共施設に設置。8月1日号北区役所だよりに掲載。 270件応募あり。10月の部会で審査、14作品を入賞とした。 ほっこり賞(10代部門)10作品、ぬくぬく賞(20～50代部門)2作品、ほかほか賞(60代以上部門)2作品。 12月23日(木)自治協議会終了後、表彰式を行い賞状と副賞を副会長が進呈した。式の様子を1月16日号の北区役所だよりに掲載。また、受賞者から書いてもらったパネル展示を行った。 ○北区役所交流スペース 12月21日～1月10日 ○北地区スポーツセンター 1月18日～2月21日 受賞作品を、シールにして区役所封筒、福祉施設の製品に貼り付けPRに努めた。 ○福祉施設用シール14000枚
事業の評価 (地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など)	6歳から80代までの幅広い世代から応募があり、この機会に、言葉をかけあい、支えあえる関係性の大切さについて考えていただくことができた。区役所の封筒に「自治協議会」と示すことで、自治協議会の名前を知ってもらう事ができた。 福祉施設の製品に貼って販売してもらう事で、「あったか言葉」の浸透、自治協議会活動の周知、販売促進につなげた。 パネル展を行ったことで、また違った層に見てもらう事ができ、「あったか言葉」の浸透、自治協議会活動の周知につなげた。 【いただいたご意見など】 ○素晴らしい企画に感謝申し上げます。 ○「あったか言葉」が子どもたちの心にひびくといいですね。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

北区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	北区 自然の魅力発信事業 【事業費予算 1,000千円】
事業目的・概要	北区には水辺環境をはじめ、花や野鳥など自然の魅力が豊富であるとともに、それらに関する取り組みが盛んにおこなわれている。その一方で、それらの魅力が区内外の人に十分に伝わっていない。北区の自然の魅力を見つめ直すとともに、区内外へ広く発信することで愛着の醸成を図る。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>① 福島潟の魅力PR動画（冬～春編）の制作（豊栄高等学校の生徒との協働制作）</p> <p>【コンセプト】 訪れたいくなる福島潟</p> <p>【公開方法】 YouTube内「新潟シティチャンネル」 ※昨年度制作した動画（夏～秋編）とあわせてDVD化し、区内の小・中・高・大学をはじめ市立図書館や区内公共施設等に配布した。</p> <p>② 北区の魅力再発見！フォトコンテストを実施</p> <p>【募集テーマ】 北区の隠れた魅力（景色、食べ物、祭り、地域行事など）</p> <p>【応募方法】 インスタグラムで「#新潟市北区2021」「#キタク魅力」の2つのハッシュタグと、被写体のタイトルと撮影場所、魅力を伝える説明を添えて、写真を投稿</p> <p>【募集期間】 9月1日～11月30日</p> <p>【賞の選定】 委員の投票により優秀賞3点、入選10点を選定し市のHPやインスタグラムで紹介。</p> <p>【応募作品の活用】 ・応募作品で令和4年度カレンダーを作成し、PR動画配布先等に配布した。 ・3月中旬～下旬に、北区役所1階交流スペースで入賞作品展を開催した。 ・応募写真は区の魅力PRに広く活用予定。</p>
事業の評価 <small>（地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）</small>	<p>① 福島潟の魅力PR動画（冬～春編）の制作 高校生が撮影・編集などを担当し、若い世代の視点で福島潟をPRすることができた。令和3年11月14日にビュー福島潟で開催されたイベント「遠藤麻理と福島潟の妖怪たち」の冒頭で、動画のお披露目イベントを行ったほか、YouTube内の「新潟シティチャンネル」で動画を公開し、福島潟の魅力を区内外に広く広報することができた。</p> <p>② 北区の魅力再発見！フォトコンテスト インスタグラム内において、41名・197件の投稿があった。インスタグラムを活用したことで、受賞作品以外の投稿についても幅広い人の目に触れることとなり、北区の魅力を広く発信することにつながった。 募集テーマを「地域の隠れた魅力」としたことで、普段フォーカスされないような場所などを撮影した投稿も多く見られ、北区の身近な魅力について見つめ直す良いきっかけづくりになったのではないかとと思われる。</p>
備考	

(※令和4年度 北区事業評価書は令和5年3月中に確定)

東区自治協議会（第8期）を振り返って

東区自治協議会会長 後藤 岩奈

1 はじめに

東区自治協議会では、地域を取り巻く環境が変化していく中、地域課題解決のため第7期まで、設置する各部会において毎年度、区自治協議会提案事業を実施してきましたが、各部会では、事業の準備や検討に多くの協議時間が割かれることで、地域課題に関する深い議論ができないという課題がありました。

そこで第8期では、委員任期の1年目を地域課題に関する調査・研究に充て、2年目を調査・研究に基づくアクションの年と位置づけ、区自治協議会提案事業を実施してきました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、各委員が思い描く活動はできなかった部分もあるかもしれませんが、委員一人ひとりが、区民と区役所をつなぐ「協働の要」としての役割を果たすため、考え、行動した2年間だったと思います。

次期の東区自治協議会において、さらなる地域課題の解決に取り組んでいただけるよう、第8期の東区自治協議会の成果や取組をここに報告いたします。

2 取組内容・成果・課題

(1) 全体会について

ア 「東区バス（松崎ルート）への小型ノンステップバス」の導入

東区では、平成19年4月から2路線（松崎ルート・河渡ルート）の区バスを運行しており、区民の移動手段として利用されています。第7期の令和2年9月に市長へ「東区バスへの小型ノンステップバス車両の導入を早期に進めていただきたい。」との要望書を提出いたしました。

その結果、第8期の令和3年10月より東区バス（松崎ルート）において、小型ノンステップバスが導入され、乗降がしやすくなったことで区民の皆さまから喜ばれており、大きな成果であったと思います。

イ 会議運営

第8期の会議運営は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたと感じています。緊急事態宣言等による会議会場の利用制限などにより、全体会や各部会の休会・書面開催、会場レイアウトの変更など、これまでにない運営を余儀なくされました。また、全体会の議論が低調であったと認識しています。第8期

の後半は、新型コロナウイルス感染症の実態や対処方法などが分かってきたことから、しっかりと対策を取り、意見が出ない場合などは、議論が活発となるよう強引ではありませんが指名により発言をしてもらうなど工夫を凝らしながら取り組みました。今後、議論をどのように活発化させるかは、各委員が抱える日頃の課題感や所属する団体の活動等を共有していくことが大切であると感じています。第9期の委員の皆さんが自ら考え、区自治協議会の活性化について意見を巡らせることを期待します。

ウ 区自治協議会の認知度向上への取組

平成30年度の「市政世論調査」では、東区は、区自治協議会の認知度が8区中、最下位となっていました。区自治協議会の活動を知ってもらうため、各事業の中で積極的にPRするとともに、広報紙「自治協かわらばん」を区だよりの紙面に掲載するなど、認知度向上への取組を行ってきました。

令和2年度の同調査では、区自治協議会の認知度が2.6ポイント上昇しており、これまでの積み重ねが実を結んだものと感じています。

とはいうものの、決して高い認知度ではありませんので、区自治協議会の活動や取組を多くの区民の皆さんに知ってもらうための取組を模索していきます。

エ 区ビジョンまちづくり計画

新潟市では、令和5年度から令和12年度までのまちづくりの方向性を示す「新潟市総合計画」を策定しました。それに伴い、東区においても「東区区ビジョンまちづくり計画」が策定されました。

東区自治協議会では、令和3年11月に開催された「区ビジョンまちづくり計画策定 東区自治協議会ワークショップ」を皮切りに、各部会においても協議を重ねながら区へ意見を述べてきました。

今後、「東区区ビジョンまちづくり計画」に基づき、東区の特色を活かしたまちづくりが行われ、区民の皆さんが心豊かに東区で暮らしていけるよう期待します。

(2) 部会・提案事業について

東区自治協議会では提案事業について、単年度での事業実施には事業の準備や検討に多くの協議時間が割かれ、深い議論ができないまま事業実施に至るとの課題があったことから、令和3年度は、地域課題の解決に向けた調査・研究の年と位置づけ、各部会でテーマ設定を行いました。

テーマ設定の具体的な方法は、関係部署から区の現状を聞き取るとともに、日ごろ各委員が感じている地域課題について、ワークショップ形式で3回程度意見交換を行いながらテーマの絞り込みを行いました。

その後は、テーマに関する学習会や勉強会、アンケート調査などを実施し、令和4年度の事業内容などを検討しました。

令和 3 年度に設定した各部会のテーマは以下のとおりとなります。

第 1 部会「自治会・町内会の担い手不足解消」

第 2 部会「“地域で子どもを育てる” 意識と地域の子どもの居場所支援」

第 3 部会「公共空間・施設の利活用」

令和 4 年度は、各部会で設定したテーマを基に事業を実施しました。

ア 第 1 部会

第 1 部会は、「市民協働部門」として、コミュニティ（地域活動・市民活動）、防犯・防災・交通安全や行政運営などを所管する部会です。

令和 3 年度は、勉強会や自治会長・町内会長を対象としたアンケート調査を行いながら、地域課題を「自治会・町内会の担い手不足解消」と設定し、令和 4 年度は、テーマの解決方法として、自治会・町内会の活動を知ってもらうための「回覧板（バインダー）」の作成（運営に携わる方を増やす取組）及び活動の効率化などを図るための「運営事例集（活動に関する負担軽減につながる取組）」の作成に取り組みました。

イ 第 2 部会

第 2 部会は、「福祉・教育・文化部門」として、福祉・子育てや教育・生涯学習、文化・スポーツなどを所管する部会です。

令和 3 年度は、学習会や東区内の子ども食堂運営者を対象としたアンケート調査を行いながら、地域課題を「“地域で子どもを育てる” 意識と地域の子どもの居場所支援」と設定し、令和 4 年度は、テーマの解決方法として、東区社会福祉協議会と連携して「こども食堂支援に関するパンフレット・ポスター」の作成及び子ども食堂の運営者と支援を考えている方々とのつながりづくりを目的に「こども食堂フェア」の開催に取り組みました。

ウ 第 3 部会

第 3 部会は、「産業・環境部門」として、商工業・農業・観光や住環境（公害・ゴミ・公園・下水）、都市交通・都市景観、自然環境などを所管する部会です。

令和 3 年度は、勉強会などを行いながら、地域課題を「公共空間・施設の利活用」と設定し、令和 4 年度は、テーマの解決方法として、東総合スポーツセンターの休館日にあえてキッチンカーを招致することで、にぎわいが創出されるのか実証を行い、実証を基に地域でキッチンカーを活用したにぎわいの創出が図られるよう「地域向けキッチンカー誘致マニュアル」を作成しました。また、東区内の公園などの施設の利活用を促すため、Instagramを活用した「新潟市東区・家族でお出かけ写真投稿キャンペーン」に取り組みました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

昨今のコロナ禍により、私たちの生活様式や行動は、大きな変化を余儀なくされました。会議の書面開催や感染予防対策への配慮などの対応が必要となり、改めて会議の運営方法や、区自治協議会の活動のあり方を見直す時期にあると考えます。

また、今期から、地域課題の把握や効果的な区自治協議会提案事業を実施するにあたり、委員任期 2 年のうち 1 年目を地域課題に関する調査・研究、2 年目をアクションの年とする見直しを図ったことで、今後新しい展開が始まるものと期待しています。

第 9 期区自治協議会が、新しい体制の中で、区民と区役所の「協働の要」としての役割を果たし、私たちの東区がますます住み良いまちとなるよう取り組んでいくことを願います。

区自治協議会提案事業 事業評価書

東区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	地域課題の解決に向けた調査研究【事業費予算 1,000千円】
事業目的・概要	区民と協働し、東区の地域課題の解決やまちの活性化に取り組む。 市民協働分野の地域課題の解決に寄与する事業を令和4年度に実施することを見据え、必要な調査研究等を行う。
事業の実施実績 実施回数、参加者数など	<p>市民協働分野を所管する第1部会では、「自治会・町内会の後継者不足」を調査・研究のテーマに設定し、以下の事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東区の現状についての勉強会の開催 【開催日】令和3年5月14日（金） 【内容】自治会・町内会、コミ協の後継者不足をテーマとした勉強会 【講師】市民協働課 ○ 自治会・町内会の活動内容に関するアンケート調査の実施 【調査対象】区内自治会・町内会長 263名 【調査方法】会長宛てにアンケート用紙を送付し、郵送、メール等で回収（223名回答、回収率約85%） 【調査期間】令和3年12月15日から令和4年1月5日（22日間） 【内容】役員の任期、活動内容、運営上での課題など ○ 自治会・町内会の活動内容に関するアンケート調査の報告書の作成 【内容】自治会・町内会の活動内容に関するアンケート調査の集計・分析（外部委託）
事業の評価 地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効 性・効率性の評価など	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の抽出や調査、研究のテーマの選定するにあたり、関係部署から区の現状等を聞き取るとともに、グループに分かれてワークショップを複数回実施した。委員一人ひとりが多くの意見を出すことができ、活発な議論を経て、地域課題と調査・研究テーマの設定ができた。 ・アンケートを実施し、各自治会・町内長が意見を述べる場を設けたことで、区内各自治会、町内会の活動状況だけでなく、東区自治協議会へ期待するものについても把握する機会となった。 ・報告書にまとめ、課題や傾向が見える化したことで、令和4年度に第1部会として取り組んでいく具体的な取組みを協議していくうえでの貴重な検討材料とすることができた。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

東区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	地域課題の解決に向けた調査研究【事業費予算 1,000千円】
事業目的・概要	区民と協働し、東区の地域課題の解決やまちの活性化に取り組む。 福祉・教育・文化分野の地域課題の解決に寄与する事業を令和4年度に実施することを見据え、必要な調査研究等を行う。
事業の実施実績 <small>(実施回数、参加者数など)</small>	<p>福祉・教育・文化分野を所管する第2部会では、「地域の子どもの居場所支援」を調査・研究のテーマに設定し、以下の事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの育ちと地域の関わりに関する学習会の開催 【開催日】令和3年11月8日(月)13:30~15:00 【内容】「子どもの育ちと地域の関わり」をテーマとした講演と意見交換 【講師】新潟県立大学人間生活学部子ども学科 教授 小池 由佳氏 【参加者】20名 ○ 東区内子ども食堂運営者を対象としたアンケート調査 【調査対象】区内子ども食堂運営者 9者 【調査方法】運営者あてにアンケート用紙を送付し、郵送またはメールで回収(回収率100%) 【調査期間】令和3年12月2日から13日(12日間) 【内容】活動状況、活動の特長と課題、活動の連携先など ○ 東区内子ども食堂運営者を対象としたインタビュー調査 【調査対象】区内子ども食堂運営者 8者 【調査方法】アンケート結果を踏まえ、自治協議会委員が運営者を訪問し、聞き取り調査を実施 【調査期間】令和3年12月22日から令和4年1月14日 【内容】運営上の困りごと、課題、うまくいっていること、今後の活動の見通しなど
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の抽出や調査・研究テーマを設定するにあたり、関係部署から区の現状等を聞き取るとともに、グループに分かれてワークショップを複数回実施した。委員一人ひとりが多くの意見を出すことができ、活発な議論を経て、地域課題と調査・研究テーマの設定ができた。 ・子どもの育ちと地域の関わりに関する学習会は、「地域の子どもは地域で育てる」という意識についての理解を深めるために実施した。有識者の学術的見解や本質的な意味などを学ぶことができ、有意義な学習会となった。参加した委員アンケートでも、「良かった」、「自治協議会活動の参考となった」との評価が多数だった。 ・区内の子ども食堂運営者を対象としたアンケート及びインタビュー調査は、委員が現場の声を直接聞き、運営者の課題認識やニーズなどを把握することができ、令和4年度に実施する取り組みに向け有益なものであった。また、アンケート及びインタビュー結果を運営者にフィードバックしたことで、運営者間の情報共有の一助となったと評価できる。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

東区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	地域課題の解決に向けた調査研究【事業費予算 1,000千円】
事業目的・概要	区民と協働し、東区の地域課題の解決やまちの活性化に取り組む。 産業・環境分野の地域課題の解決に寄与する事業を令和4年度に実施することを見据え、必要な調査研究等を行う。
事業の実施実績 実施回数、参加者数など	<p>産業・環境分野を所管する第3部会では、「公共空間・施設の活用」を調査・研究のテーマに設定し、以下の事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東区の現状についての勉強会 【開催日】令和3年5月13日(木) 【内 容】東区の公共交通(区バス)についての説明 【講 師】東区役所地域課 ○ 東区の現状及び事例についての勉強会 【開催日】令和3年11月11日(木) 【内 容】①公園に関する基礎情報の説明(講師:東区役所建設課) ②公園活用事例の説明(講師:公園水辺課) ○ 区バス新車両の試乗会及び次年度事業の実施予定地視察 【開催日】令和3年12月11日(土) 【内 容】令和3年10月1日より運行を開始した松崎ルートの新車両について、第3部会委員を対象とした試乗会を開催した。 あわせて、令和4年度に新規の区づくり事業(賑わいまちづくりプロジェクト)を予定している日本海フェリーターミナル脇の現場を視察した。
事業の評価 地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効 性・効率性の評価など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題の抽出や調査・研究テーマを設定するにあたり、関係部署から区の現状等を聞き取るとともに、グループに分かれてワークショップを複数回実施した。委員一人ひとりが多くの意見を出すことができ、活発な議論を経て、地域課題と調査・研究テーマの設定ができた。 関係部署による説明という机上での勉強会にとどまらず、実際に次年度事業を参考として現場視察を行ったことは、令和4年度に実施する事業案検討にも有効であると評価できる。 ・ 区バス新車両の試乗会では、運行ルートの一部を走行することにより、乗客の立場で乗り心地等を確認することができた。また、車いすでの乗降体験を行うことにより、車いす利用者の視点で区バス利用時の安全対策等を確認し考えることに繋がった。
備考	

(※令和4年度 東区事業評価書は令和5年3月中に確定)

中央区自治協議会（第8期）を振り返って

中央区自治協議会会長 佐藤 雅之

1. はじめに

第8期中央区自治協議会では、感染症に対処しながらどのように①市からの諮問に答申し、②地域課題を解決する活動ができるかを考えながら、全体会の運営や部会活動を行い、審議・検討や地域課題の解決に向けて取り組んできました。

特に新たな区の方針となる区ビジョンまちづくり計画を策定するため、委員全員で原案を繰り返し討議し、意見を集約しました。結果、区民全体の意見という形で満足のいく答申ができたと考えています。

また、部会では、コロナ禍による影響で活動が思うように進められない場面もありましたが、委員それぞれが自発的に課題に取り組み、最後までやり遂げることができました。以下、その成果と課題を振り返ります。

2. 取組内容・成果・課題

(1) 全体会について

ア コロナ対策について

コロナ禍の影響を踏まえ、参集する形での会議開催時においては、運営ガイドラインに基づき、出席者の密集・密接を回避するための会場選択や座席の配置、出席者への感染防止対策の徹底などの対策を講じることで、安心・安全な会議運営に努めてきました。

また、一部の関係所属については、3密回避のため、庁内WEB配信を活用した出席方法での会議参加や、感染拡大時等については、開催方法を書面開催に切り替えるなど、新たな生活様式や感染状況の変化にあわせた会議の在り方について柔軟に対応してきました。

イ 審議・検討に重きをおいた取組

全体会では、必要な案件を整理し、要点を絞った簡潔でわかりやすい資料作成や原則資料の事前配布を担当課・事務局にお願いすることで、委員が議論しやすく地域の意見を届けやすい運営を心掛けました。

また、全体会が活発な議論の場となるよう、市からの意見聴取、報告事項だけではなく、委員相互の課題認識と情報共有として、「委員提案に基づく討議」の時間を新たに設定し、これまで12件の討議事項について意見交換

をおこない、会議の活性化に努めました。

ウ 委員向け研修会の実施

中央区自治協議会委員を対象とした区独自の研修会を開催しました。令和3年度においては、区自治協議会設置から15年目を迎え、全体会では報告事項が主で、議事についても、内容に関係する一部の人が発言するに留まっており、初めて委員に就任された人の中には、余りにも会議が淡々と進み、会議の重要性や必要性が十分に理解されていないことが懸念されたことから、委員のみなさんに改めて役割を認識していただくとともに、自治基本条例に定める自治の基本理念や基本原則等を確認することを目的に、「新潟市自治基本条例及び新潟市区自治協議会条例について」の研修会を開催しました。

令和4年度においては各部会の活動について、その活動経緯や取組内容、成果等を発表する場として、「委員活動報告会」を委員自らの提案で開催しました。委員からは、「全体会では概要の報告を聞くだけで、他の部会がどんな活動をしているのか良くわからなかったので、とても勉強になった。」「他の部会の活動を知れて、良い刺激になった。」といった意見があり、取組を超えた活発な意見交換や、新たな気づきが生まれました。

2年間の活動を通じた中で、これらの研修会を開催することで、委員の意識・認識の向上と、区自治協議会のさらなる活性化に努めました。

エ 区ビジョンまちづくり計画

平成27年から8年間の計画で策定された中央区区ビジョンまちづくり計画が令和4年度で期間を満了するため、今期では、次期中央区区ビジョンまちづくり計画策定のための議論を多く行いました。

令和3年11月に開催された次期区ビジョン策定に向けたワークショップをはじめ、各部会においても協議を重ねながら区へ意見を述べてきました。

今後、新たな「中央区区ビジョンまちづくり計画」に基づき、中央区の魅力を活かしたまちづくりが行われることを期待します。

(2) 部会・提案事業について

ア 第1部会

第1部会は、「商店街、産業／まちなか回遊、交流人口」の分野を所管する部会です。

第8期では、新潟駅・万代・古町を結ぶ都心軸の周辺エリアである「にい

がた 2 km」を市民目線で盛り上げるため、隠れた魅力を掘り起こし、活気あふれる「歩きたくなるまち」のきっかけ作りを検討し、「にいがた 2 km」エリアのさらなる活性化を図るため、イベント「にいがた 2km ガチャラリー」を開催しました。1 日のみのイベントではありましたが、住民参加型イベントとして、「にいがた 2 km」の魅力を多くの方々にアピールすることが出来たと考えます。

イ 第 2 部会

第 2 部会は、「協働、健康・福祉」の分野を所管する部会です。

第 8 期では、子どもと高齢者を対象に、地域の抱える福祉分野の課題を解決する地域内の支えあいづくりを目的として、提案型による協働事業を実施しました。

採択された 1 事業に対し、助言やサポートを行い、実効性の向上を図りました。

その他、G7 サミット開催に関連し、美しい新潟市を国内外に PR し、さらなる交流人口の拡大を図るため、「G7 サミット・おもてなし美化活動」として、区民や事業者等を対象とした環境美化啓発活動を実施しました。

ウ 第 3 部会

第 3 部会は、「教育連携・社会教育／防災・防犯／歴史・文化」の分野を所管する部会です。

第 8 期では、中央区の魅力（歴史・文化、スポーツ、文教など）に対する各世代の現状認識の把握のため、中央区市民アンケートを実施しました。実施結果をもとにしながら、若者が多い中央区の特性を活かし、若者との連携を軸に、より効果的な中央区の魅力発信の手法等について、意見書としてまとめました。今後、この結果を参考にしながら、中央区の魅力普及につなげてほしいと考えています。

エ 第 4 部会

第 4 部会は、「都市機能、まちなみ／生活環境／水辺、緑化」の分野を所管する部会です。

第 7 期で取り組んだ「空き家対策」を第 8 期でも引き続きテーマとし、令和 3 年度は、空き家問題は個人だけではなく、地域としての課題であることを認識してもらい、適切な空き家管理や活用を進めてもらおうと、自治会・町内会長を対象とした空き家対策に関する講演会を開催したほか、令和 4 年度は、空き家を空き家のままにしないための啓発として、古民家・空き

家を利活用した事例の紹介動画を作成し、HPで公開することで、多くの市民に周知・啓発することができたと考えます。

オ 中央区自治協議会だより編集部会

中央区自治協議会だより編集部会では、区自治協議会がどのような組織であるか、どのような活動を行っているのか、その基本的な疑問を意識しながら「中央区自治協議会だより」を年2回発行しました。限られた紙面の中で、読み手の視点を考え、工夫して取り組む事で、認知度向上に努めました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3. おわりに

今期は、第7期に引き続き、コロナの影響を受けながらの活動となりました。全体会の中止や書面開催、感染拡大防止策などのこれまでとは違った対応をとることを余儀なくされました。部会活動においても、事業計画の見直しや調整などが必要となりました。このような状況においても、委員一人ひとりが状況を理解し、柔軟に対応してきたおかげで、全体会・部会ともに大きな混乱もなく、「新しい生活様式」に対応した提案事業を実施することができました。

また、区自治協議会が設置され、15年以上経過しました。形骸化されつつある区自治協議会を、どうやって活発な議論の場とするのか。また、社会情勢が大きく変化し、住民ニーズが多様化する中において、委員それぞれが、いかに地域課題に積極的に関わることができるようにするかなど、改めて区自治協議会の役割について考え、研修会の開催や、委員間討議の設定、部会活動報告会の開催など、新たな試みを試行錯誤しながら実施してまいりました。

今後も引き続き、この区自治協議会をより素晴らしいものにするために、研修の充実や、諮問機関としての議論の活性化、効果的な提案事業の内容選定と事業実施等をさらに推し進めていく必要があると考えています。

特に提案事業として実施する取組については、委員のみなさまからも「取組の継続性が無い」や「行政からやらされ感がある」等の指摘があります。

来期以降においても、これらの課題について積極的に討議し、区自治協議会の設置目的である「市民と市とが協働して地域のまちづくりや地域課題に取り組み、更なる住民自治の推進」の取組を進めることで、中央区のさらなる発展につながることを期待しています。

区自治協議会提案事業 事業評価書

中央区自治協議会 第1部会

区分	内容
テーマ・事業名	「にいがた2km」エリアの活性化 ～市民目線で隠れた魅力を発信～
事業目的・概要	新潟駅・万代・古町を結ぶ都心軸の周辺エリアである「にいがた2km」を市民目線で盛り上げるため、隠れた魅力を掘り起こし、活気あふれる「歩きたくなるまち」のきっかけ作りを検討し、「にいがた2km」エリアのさらなる活性化を図る。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	【令和3年度実施事項】 ○「にいがた2km」エリアのさらなる活性化に向けた調査・研究 ・各委員が思い描く「理想のまち」について意見交換 ・「にいがた2km」に関するアンケート、ワークショップ形式での意見交換 ・「にいがた2km」における市の取り組み内容に関する勉強会
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	○第1部会は地域コミュニティ協議会のほか、新潟商工会議所や新潟中心商店街協同組合、にいがた女性会議、まちづくり学校といった専門分野に関わる委員や公募委員から構成されている。 第1部会の所管事項である商店街や産業、まちなか回遊および交流人口の分野で、それぞれが考える地域課題や興味・関心のある事柄等について意見交換を行った結果、新潟駅や新潟の都心が大きく変わろうとしている今、このエリアを市民の皆さんに、より楽しんでもらいたいという趣旨の意見が多く挙げられたことから、市が取り組みを進める「にいがた2km」に関連する取り組みの検討を進めることとした。 ○部会として具体的にどのような事柄をどのような手法でアプローチすべきかの検討を行うためには、市の取り組みなどについて理解を深める必要があると考え、市の事業担当課(まちづくり推進課)を招いて勉強会を開催し、あわせて意見交換も実施した。 ○委員間の意見交換や勉強会を通じて、この「にいがた2km」エリアにはあまり知られていない魅力がまだまだ埋もれてるのではないかと仮説を立て、にいがた2kmの自慢できるものや大切にしたいもの、本当は教えたくない隠れた魅力等について、第1部会の委員等から意見を募ると同時に、それらの魅力の発信方法について、検討を重ねた。 ○今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により活動時間も限られたため、テーマ設定から調査・研究に力を注いできた。来年度については、今年度の調査・研究結果を基に、「にいがた2km」エリアのさらなる魅力発信に取り組み、「緑あふれる人・モノ・情報が行き交う活気あるエリア」を目指し、もっと「歩きたくなるまち」のきっかけ作りを仕掛けていきたい。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

中央区自治協議会 第2部会

区分	内容
テーマ・事業名	未来への種まきプロジェクト～育てよう！ささえあいの気持ち～
事業目的・概要	こども・高齢者に関連した地域が抱える課題を解決する支えあいづくりを目的とする。この目的の達成をかける事業を募集し、自治協委員との協働により、その事業の効果を高める。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>【提案型協働事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○募集にかかる検討 <ul style="list-style-type: none"> ・対象となる事業や経費、サポート内容について検討した。 ○事業募集に向けた勉強会 <ul style="list-style-type: none"> ・募集分野に関する知識を身につけるため、勉強会を開催した。 ○要項の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・来年度からの募集に向け、検討を行った内容の整理をし、要項の作成を行った。 ○チラシの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・来年度からの募集に向け、チラシの作成を行った。
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<ul style="list-style-type: none"> ○第2部会は地域コミュニティ協議会の地域団体のほか、社会福祉協議会やはっぴい mama応援団、新潟青陵大学福祉心理学部といった福祉の専門分野に関わる委員らで構成している。 ○所管分野での興味・関心のある課題として、認知症の方のケアやこどもの居場所づくり等、様々な意見が挙げられた。また、専門分野の委員からは、課題が多様化しているという現状について意見があった。 ○そこで、福祉分野の地域課題を解決しようとする取り組みとして、第2部会と協働することで事業の効果が高まるような取り組みを募集することとした。 ○募集に向け、対象とする分野やサポートの対象とする経費、審査方法について部会で決定し、その内容をもとに要項を作成することができた。 ○チラシのデザインや内容についても、部会員で意見を出し合い作成した。チラシの配布先や枚数、その他広報の方法についてもより多くの募集があるよう検討し、来年度から配布、広報をしていく。 ○募集開始前に、対象分野に関する知識をつける目的で、こども・高齢者についての勉強会をすることとした。中央区健康福祉課に講師を依頼し、12月の部会では、「高齢者を取り巻く地域課題について」の勉強会を行った。1月の部会では、「こどもを取り巻く地域課題について」の勉強会を予定していたが、コロナウイルス感染症対策で中止となったため、今後改めて実施したい。 ○来年度は、実際に募集を開始し、講師の紹介やノウハウの提供、地域とのつながり作り、助成金情報の提供等、事業効果を高める支援行っていく。また多くの募集があるよう広報活動の充実も図っていく。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

中央区自治協議会 第3部会

区分	内容
テーマ・事業名	若者を中心とした歴史・文化の魅力発信 ～中央区市民アンケート調査～
事業目的・概要	<p>中央区の魅力(歴史、文化、スポーツ、文教、みなとまち、経済など)に対する認識を深めるため、若者や学校と連携し、多様な手法で魅力を発信することを目的とする。</p> <p>まずは、各世代の中央区に対する現状認識の把握のため、中央区市民アンケートを実施する。実施結果をもとにしながら、各種学校が立地し若者が多い中央区の特性を生かすため、若者との連携を軸に、より効果的な情報発信の手法を検討のうえ、中央区の魅力を普及する。</p>
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>【令和3年度実施事項】</p> <p>中央区に関する洗い出し(委員知見の共有や教育機関一覧の作成など)</p> <p>部会内グループワーク(中央区の特色及び取組みテーマについて)</p> <p>魅力発信手法の検討</p> <p>中央区市民アンケート内容の検討・作成(実施は来年度春予定)</p>
<p>事業の評価</p> <p>〔地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など〕</p>	<p>○第3部会は地域コミュニティ協議会の地域団体のほか、教育現場で活躍する地域教育コーディネーターや、防災士、文化施設職員、大学生といった専門分野に関わる委員らで構成している。</p> <p>○中央区の特色をワークショップ形式で部会内で意見を出し合ったところ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が多く若者が集まっている ・内外から人が集まり、人を受け入れるまちである ・歴史もあれば未来もあるまち ・キーワードとしては、学校・若者・経済の中心・文教・みなとまち・歴史・スポーツといった意見が挙がった。 <p>○魅力が複数挙がった一方で、これらの魅力や中央区の成り立ち、文教のまちの認識については、若者に限らず、知らない方が多いのではないかという意見も挙げられた。</p> <p>○まずは市民の中央区に対する現状認識を把握するため、部会として「中央区市民アンケート」を実施し、その結果を参考に、魅力発信におけるより効果的な手法や内容を検討することとした。</p> <p>○情報発信の手法や内容については、中央区の特色の一つである各種専修学校や大学、短期大学が多くあることを生かし、教育機関と連携することによる、若者の力の活用を検討している。</p> <p>○また、「中央区市民アンケート」では、まちの情報を得る際のツールについても問う。部会の成果物については、本回答に応じ、各種ツール(SNSなど)の積極的な活用を考えている。</p> <p>○来年度は、アンケート結果を踏まえ、魅力発信の方法を確定し、若者と連携しながら中央区の魅力普及を図る。</p>
備考	

令和3年度

資料 議 1-4

区自治協議会提案事業 事業評価書

中央区自治協議会 第4部会

区 分	内 容
テーマ・事業名	地域における空き家対策 ～地域の空き家に関するアンケート・空き家講演会～
事業目的・概要	<p>空き家は個人の財産であり、所有者や管理者は、空き家を適切に管理する責務があるが、適切に管理されず放置されると、建物の劣化が進み、防災面や防犯面、衛生面の問題が生じる恐れがあり、近隣や地域の大きな問題に発展する可能性がある。</p> <p>空き家を地域の課題として認識し、適切な対策を進めてもらえるよう、アンケート調査により実態把握するとともに、地域活動の一助となるよう空き家対策に関する講演会を実施する。</p>
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>○実施内容：「中央区自治会長・町内会長感謝の集い」におけるアンケート及び講演会の実施</p> <p>○実施日時：令和3年11月11日（木）14:00～15:30</p> <p>○会 場：市民プラザ（NEXT21 6階）</p> <p>○出席者：自治会・町内会、地域コミュニティ協議会、自治協議会 59名</p> <p>(1)地域の空き家に関するアンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対 象：出席者 59名 ・回収率：91.5%（有効回答数：54） ・結果公表：中央区自治協議会だより（令和4年2月6日発行第28号）にアンケート結果の概要を掲載 <p>(2)講演会「町内から取り組む空き家問題の解決に向けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講 師：一般社団法人全国空き家相談士協会 新潟支部 支部長 河端浩通 氏
事業の評価 地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価など	<p>○前期に引き続き「空き家対策」をテーマとして取り組み、アンケート及び講演会を実施することで、自治会・町内会・地域コミュニティ協議会に対して意識啓発を行うとともに空き家に関する基礎知識を身に付けてもらうことができた。</p> <p>○コロナ禍で対象の人数は限られたものの、区の事業と連携して企画することで、効率的かつ安全に実施することができた。</p> <p>○地域の空き家に関するアンケートでは、自治会・町内会・地域コミュニティ協議会における空き家の把握状況や取り組み状況などについて調査した結果、地域内の空き家の存在は概ね把握されているものの、所有者がわからないケースがあることや具体的な取り組みまでは行っていない団体が多いことなどがわかった。</p> <p>○講演会では、空き家となる原因や問題点、空き家活用事例などについて、実際の写真や市内の取り組み例などを交えてお話しいただき、参加者に身近な問題として認識してもらうことができた。</p> <p>○「中央区自治協議会だより」で取り組み内容を紹介することで、部会活動や空き家対策について、より多くの市民に周知・啓発することができた。</p>

(※令和 4 年度 中央区事業評価書は令和 5 年 3 月中に確定)

江南区自治協議会（第8期）を振り返って

江南区自治協議会会長 小林 勲

1 はじめに

第8期の江南区自治協議会は、選出団体の入れ替えもあり、新たに12名の委員を迎えスタートしました。

今期は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、企画したイベントの中止や、例年開催している研修会、委員同士の懇親会が開催できないなど、さまざまな活動の制限を余儀なくされた2年間だったと感じています。

しかしながら、このような状況下におかれても、本会議においては、活発な意見交換が行われるとともに、各部会では、各委員の専門性を活かし、知恵を絞りながら、目的達成に向けた取組が検討されました。手法を含めて工夫を凝らしながら、効果的な事業を実施することにより、地域の課題解決に向けて取り組むことができたと感じています。

また、今期は区ビジョンまちづくり計画を策定する時期であったことから、「江南区自治協議会ワークショップ」の開催や、「区ビジョンまちづくり計画策定特別部会」を設置するなど、区との協働をさらに深めながら策定を進めることができました。

こうした状況に鑑みると、コロナ禍においても、行政との協働の要である区自治協議会の役割を果たせたと考えています。

これまでの活動を第9期に引継いでいくため、今期の取組、成果、課題などについて報告いたします。

2 取組内容・成果・課題

(1) 全体会について

ア 区自治協議会の認知度向上、さらなる活性化について

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う新たな地域課題の解決やアフターコロナを見据えた魅力向上など区自治協議会の重要性はますます高まっていることから、委員全員に区自治協議会の「認知度向上」「活性化」についてアンケートを実施しました。

「認知度向上」については、広報に関すること、地域コミュニティ協議会や地域との連携に関すること、区自治協議会での事業に関することなど幅広い意

見が集まり、「活性化」については、「部会をもっと充実させてはどうか」「勉強会やワークショップなど実施してはどうか」など委員同士の情報交換を求める意見が多くありました。

集まった意見・提案について、できることから始めていくほか、第9期にも活かしていきたいと思います。

(2) 部会・提案事業について

ア まちづくり部会

まちづくり部会は、道路・公共交通・産業振興分野を所管する部会です。

第8期では、アフターコロナを見据え、区内への来訪者増や関係交流人口の拡大に向けて、地域の魅力を掘り起こし発信するなど、まちの活性化につながる取組を実施しました。

区内の各地区には、その地域を紹介する観光向けなどのマップがあるが、曾野木地区と横越地区（沢海エリア以外）にはないことから、両地区を紹介するマップを作成することとしました。

作成にあたっては、地域を学び名所などをめぐる「まち歩き」を実施するとともに、部会において意見交換を重ねながら、掲載内容を検討しました。

地元の住民であっても、その土地の歴史などについての理解や知識が浅い場合も多く、作成の過程における取組が、地元について学ぶ良い機会になったとともに、地元の地域コミュニティ協議会や、(一財)北方文化博物館をはじめ、さまざまな団体との連携・協働が図れたことに、意義を感じています。

なお、完成したマップは、地元の小・中学生の学習に使用いただくため、地元の学校に配布したほか、区内の公共施設等に設置をしています。

次期においても、今期の取組の意義や継続性を意識しながら、まちの活性化に向けたさらなる取組が期待されます。

イ 安心安全部会

安心安全部会は、防犯・防災・交通安全、地域医療・福祉を所管する部会です。

災害の際の必要な備えや対応を習得してもらうため、PR活動を行うとともに、子どもから大人まで「支え合い」「助け合い」を考えるきっかけづくりを行いました。

令和3年度は、防犯防災の啓発グッズの作成・配布のほか、江南区親善大使を活用した助け合いの絵本「みんなにここに」の紙芝居の読み聞かせやその動画を撮影しYouTubeにアップロードしました。

令和4年度は、地域で行われている助け合い活動を知ってもらうとともに、自分でもできることから始めてもらうきっかけづくりのため、区内の助け合い活動の事例を集めたカレンダーを作成し、配布しました。

ウ 環境・教育部会

環境・教育部会は、生活環境・教育・生涯学習、文化・スポーツを所管する部会です。

令和3年度は、きれいで暮らしやすい江南区を目指し、これまでのごみ拾いに、「スポーツ」のエッセンスを加え、「競技」へと変換させた日本発祥の新しいスポGOMI大会を横越地区で開催しました。

令和4年度にも、曾野木地区でスポGOMI大会を開催するほか、江南区の特産である「亀田縞」を広めるため、子育て中の母親など若い世代の女性を対象に亀田縞生地のエプロンを製作するワークショップを開催しました。参加者からSNSなどで発信してもらうことで、亀田縞の認知度向上、生地の活用につなげました。

エ 江南区区ビジョンまちづくり計画策定特別部会

江南区区ビジョンまちづくり計画策定特別部会は、区自治協議会本会議や各部会での意見交換に加え、より区と協働して次期区ビジョンの策定を進めるための特別部会です。

令和3年度は、幅広く区民の意見を把握するため、区自治協議会の委員や地域で活躍している、活動している区民の方に江南区の魅力や課題、どんな区になったらよいかなど、インタビューを実施しました。

令和4年度は、次期区ビジョンまちづくり計画（案）の計画に盛り込む、現状と新たな要素について意見交換を行いました。

新たな区ビジョンのもと、今後の江南区がもっと魅力的なまちになっていくことを期待しています。

オ 地域課題解決サポートプロジェクトの実施

各部会の取組とは別に、暮らしやすい地域の実現につなげるため、これまで各地域で実施してきた「人口減少対策に向けたワークショップ」で整理された「コミュニティの維持・向上」や「現状の地域課題の解決」につながる地域主体の取組について、区自治協議会提案事業として支援する制度です。

令和3年度は、3つの地域コミュニティ協議会、令和4年度は2つの地域コミュニティ協議会で実施し、各地域で抱える課題に対して支援を行うことで、地域の課題解決やコミュニティの維持・向上が図られました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

人口減少、少子・超高齢化などの従来からの課題に、感染症に伴う課題が新たに加わり、地域課題はさらに複合的なものとなっているほか、アフターコロナを見据えた検討、対策など区自治協議会の重要性はますます高まっています。

第9期は、新たな新潟市総合計画及び区ビジョンまちづくり計画のスタートにも当たります。改めて区の変化や課題を区役所と共有し、各部会を中心に区役所が実施する事業と、区自治協議会の各部会で実施している提案事業の連携や役割分担を図って「緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち」の実現に向け協働していくことが必要となっています。

また、1期2年間で課題を解決することは容易ではないことから、各部会で解決を目指す課題を絞った上で、取組を進めることも有効ではないかと考えます。

第9期では、このような点を踏まえつつ、協働の要としてさらなる活動の活性化が図られることを期待します。

区自治協議会提案事業 事業評価書

江南区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	江南区モビリティプロジェクト 【事業費予算1,000千円】
事業目的・概要	<p>【目的】 区内公共交通の現状や様々な移動手段について、調査研究を行うことで、地域に則した交通体系の検討を支援する。また、江南区の魅力の発信に繋がる取り組みを実施する。</p> <p>【概要】 ○区内各地域の公共交通に関する取り組みや検討への協力。 ○アフターコロナを見据え、区内への来訪者増やまち魅力向上に繋がる取り組みを実施。 ○江南区親善大使キャラクター等を活用し、江南区や区自治協議会のPRを図る。</p>
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>1. 曾野木まち歩きマップの制作 (実施理由) ○人口減少が進む中、関係交流人口を拡大することがまちの活性化に繋がると考える。コロナ禍で人流や交流機会も減少している状況を考慮し、アフターコロナを見据えながら区内への来訪者増やまちの魅力向上を図っていく必要がある。 ○区内各地区には様々な宝、魅力があり、それらを掘り起こすとともに、江南区全体と各地域を関連付けて紹介することが重要と考え、そのツールとしてマップを作成することとした。 ○区内でこのようなマップがない地域は曾野木地区と横越地区であり、今年度は曾野木地区を作成する。</p> <p>(作成に向けた取り組み) ○曾野木地区まちめぐりの実施 ・日時: 令和3年11月18日(木) 13時から17時 ・場所: 曾野木エリア(15か所) ・参加者: まちづくり部会委員11名、事務局3名、曾野木地区コミュニティ協議会(協力)</p> <p>2. 親善大使キャラクターシール・クリアファイルの増刷 ○特産品PRを目的に、親善大使キャラクターシール及びクリアファイルを増刷した。 ○作成枚数: 5,000枚(シール) 1,000枚(クリアファイル)</p> <p>3. 事業内容について ○前期委員からの申し送りにより、公共交通を中心に検討をする予定であったが、交通の見識を深めるための専門家による講演会は新型コロナウイルスの影響により実施に至らず、大江山地区や両川地区における新たな移動手段の取組の進捗状況を適宜情報共有し、各地区で活かすこととした。 ○今回は、新たな委員構成となり、アフターコロナを見据えた来訪者増やまちの魅力向上に繋がる取り組みを中心に行うことに決定した。</p>
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>【令和3年度の事業評価】 ○まち歩きマップは、曾野木地区の特長や歴史文化などを盛り込み、デザインも親しみのあるものにすることができた。 ○江南区親善大使の活用は、さらなる区の特産品のPRにつながることから、今後も様々な媒体において積極的に親善大使を活用した啓発を行う必要がある。</p> <p>【来年度の展開について】 ○来年度においても、アフターコロナを見据え、横越地区のマップ作成など、まちの魅力発信に繋がる取り組みを検討し、実施していく必要がある。 ○コミュニティ協議会や区自治協議会の認知度は、まだまだ低いことから、次年度も江南区親善大使などを活用した広報・啓発を継続する必要がある。</p>
備考	

令和4年3月29日

区自治協議会提案事業 事業評価書

江南区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	多世代交流”みらい”プロジェクト 【事業費予算 1,000千円】
事業目的・概要	【目的】 子どもから高齢者まで、多世代が交流する事業を検討・実践することで、コミュニティの活性化や、暮らしやすい”みらい”の地域づくりにつなげる。 【概要】 きれいで暮らしやすい江南区を目指し、これまでのごみ拾いに、「スポーツ」のエッセンスを加え、「競技」へと変換させた日本発祥の新しいスポーツポGOMI大会を開催する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	日時:11月3日(水・祝)午前10時～正午(受付:9時30分) 集合場所:横越総合体育館芝生広場 参加人数:20チーム、82名。 ルール:予め定められたエリアで、制限時間内に、チームワークでごみを拾い、ごみの量と質でポイントを競い合う。 回収ゴミ重量:34.85キロ
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	○ごみを拾うことで地域の良好な環境づくりに寄与できた。 ○燃えるゴミ、燃えないゴミ、ペットボトル、空き缶、たばこの吸い殻といった種類ごとにゴミを分別し拾うことで、どのゴミが多いかなど地域の環境美化を改めて考える機会を提供できた。 ○未就学児や小・中学生、親世代、祖父母世代の参加があり、多世代で交流する事業を実施できた。 ○全参加チームが「満足」「ほぼ満足」と回答し、満足度の高いイベントとなった。 ○参加者から「ゴミを拾って町がキレイになると同時に運動もできて良かった」「楽しくゴミ拾いをできてよかった」「また参加したいです」との声をいただいた。
備考	

令和4年3月29日

区自治協議会提案事業 事業評価書

江南区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	誰でも安心して安全に暮らせるまちづくりプロジェクト 【事業費予算 1,000千円】
事業目的・概要	<p>【目的】 災害発生時などにおいて、具体的にどのような備えが役に立つか、どのような対応が必要かを習得してもらうため、PR活動等を実施する。 また、子どもから大人まで「支え合い」「助け合い」を考えるきっかけを作り、誰もが安心・安全に暮らせるまちを目指す。</p> <p>【概要】 ・区役所だより「こうなん」に防災Q&Aコーナーを不定期連載 ・区内小学校新1年生に助け合い絵本の配付 ・安心安全グッズ等の配布</p>
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p><区役所だより「こうなん」に防災Q&Aコーナーを連載> 区役所だより「こうなん」に自治協委員が普段疑問に思っている防災に関する質問をQ&A形式で連載。 ○内容等:避難時には何を携えていけばいいのか、避難所と避難場所は違うのか、…など</p> <p><区内小学校新1年生に助け合い絵本の配付> 当部会で平成30年度に作成した「支え合いの絵本「みんなにここに」」を区内6小学校の新1年生全員に配付。</p> <p><江南区親善大使交通安全反射キーホルダーを作成> 小学校入学前に行われる交通安全教室時に配付。</p> <p><LEDランタンの配布> 各地域で行われる防災訓練等でLEDランタンを配布。</p>
事業の評価	<p>○2万部以上の発行がある区役所だよりに掲載することで、効率的にPRできた。来年度以降も継続し、江南区全体の防災意識向上と防災力の強化に寄与したい。</p> <p>○支え合いの絵本を通じて、地域ごとに読み聞かせが行われるなどの動きがみられるようになった。</p> <p>○子どもたちが親善大使を知ってもらうことで大人への波及効果がみられた。</p> <p>○グッズの配布を通じ、安心安全の啓発ができた。</p>
備考	

令和4年3月29日

区自治協議会提案事業 事業評価書

江南区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	地域課題解決サポートプロジェクト 【事業費予算2,000千円】
事業目的・概要	【目的】 人口減少対策に向けた各地域でのワークショップの結果を踏まえ、地域の課題解決やコミュニティの維持・向上につながる地域主体の取り組みを支援する。 【概要】 ・区内のコミュニティ協議会を対象に、地域課題の解決やコミュニティの維持・向上につながる取り組みを提案してもらい、委託事業として実施する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	◎曾野木地区コミュニティ協議会 事業名:愛&絆 その光のページェント 取組概要:ことぶき公園樹木を活用したイルミネーションの設置、点灯している様子を動画配信 など ◎亀田小学校区コミュニティ協議会 事業名:図書コーナーを地域住民の拠り所に 取組概要:亀田地区コミュニティセンターホワイエに図書コーナーを設置するとともに、気軽に利用できる学習室・読書室を開設 ◎亀田西小学校区コミュニティ協議会 事業名:江南区まち歩き声かけ見守り模擬訓練in亀田西小学校区 取組概要:認知症サポート養成講座の開催、まち歩き声かけ見守り模擬訓練の実施など
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	◎各地域で抱える課題に対して支援を行うことで、地域の課題解決やコミュニティの維持・向上が図られた。 ◎区内のコミュニティ協議会を対象としていたが、新型コロナウイルスの影響もあり、3コミュニティ協議会での実施に留まった。 ◎事業開始より来年度で3年目を迎えることから、自治協議会にて本事業のあり方について検討していくこととする。
備考	

(※令和4年度 江南区事業評価書は令和5年3月中に確定)

秋葉区自治協議会（第8期）を振り返って

秋葉区自治協議会会長 金子 洋二

1 はじめに

第8期の秋葉区自治協議会は1号委員11名、2号委員10名、3号委員8名の計29名体制で活動を行ってきました。3号委員の内公募委員が4名いること、子育て世代の女性委員が複数名いること、4つの常設部会に加えて2つの特別部会（後述）を設け、それぞれ連携し合いながら特色ある活動を展開してきたことなどが特徴として挙げられます。また、委員には部会毎に色違いのアキハスムプロジェクト・オリジナルポロシャツが支給され、会議や活動の際はユニフォームのような感覚で着用を励行するなど、一体感のある組織運営を重視してきました。結果として個々のモチベーションとチーム力が共に高い組織作りができたものと考えます。

第8期秋葉区自治協議会では、前期まで積み上げられてきた成果の上に立ち、自らの役割として以下の3点を掲げて活動を進めてきました。

- ・市町村合併により生じた市民自治における意思決定のギャップを埋める。
- ・政治的中立の立場から、市政・区政に対して言うべきことを言い、やるべきことをやる。
- ・秋葉区住民の知恵を集め、未来を拓く実験を先駆的に行う。

前期に引き続き「議論と行動」を基本方針に掲げ、活発な議論と地域内での活動を通して住民が主体となった秋葉区のまちづくりに貢献ができたものと考えています。

2 取組内容・成果・課題

(1) 全体会について

ア 定例会議

毎月の定例会議では常に活発に意見が交わされ、議事が予定した時間内に収まらないほど白熱することがしばしばありました。感染症流行への対策としてオンラインでの参加を可能にしたり、ワークショップによる意見集約を積極的に取り入れたりするなど、一人ひとりの声が見える会議の運営を心がけました。

また、これまで通り年に数回は各地区のコミュニティセンターを巡回する形で会議を行うことにより、秋葉区の多様な資源や地区毎の取組を意識した議論につなげることができました。

イ 委員研修会

令和3年度の委員研修会では、次期区ビジョンおよびまちづくり計画策定に向けたワークショップを行いました。直前に実施した「秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査」の結果を踏まえ、区民ニーズを反映した有意義な意見交換を行うことができました。令和4年度は、変化が著しい時代に持続可能なまちづくりを進める上で必要となる「地域経営」の考え方を学ぶセミナーを開催しました。また、次年度の特色ある区づくり予算事業の編成のために、ワークショップ形式での意見集約を行いました。

(2) 部会・提案事業について

ア 第1部会

第1部会は、環境、産業、観光、商店街の活性化を所管する部会です。

これらをテーマとしたまちづくりを推進するため、前期に引き続き「きらめきサポートプロジェクト」を行いました。住民からの具体的な事業提案を公募して官民協働で実施することにより、地域の人財を発掘するとともに活動の進化をサポートしてきました。第8期では8つの事業を採択・実施しました。

イ 第2部会

第2部会は、防犯・防災、健康、福祉、住環境を所管する部会です。

第8期ではモデル地区での生活交通支援事業と小中学生向け防災手帳の作成、防災講演会の開催に取り組みました。

ウ 第3部会

第3部会は、前期に実施した「あきは子ども大学」の後継事業として、成人向けに秋葉区の魅力を体感するプログラムを盛り込んだ「Akiha おとな大学」を実施しました。

エ 広報部会

広報部会は、上記3つの部会を横断的につなぎ、区自治協議会の活動と秋葉区の魅力を発信することを担う部会です。具体的な取組としては、地域に根差したコミュニティFMを活用し、毎月第2水曜日（再放送第2土曜日）の広報番組「あきはくはつものがたり」の制作と委員自らの出演、2年間で600本のスポットCMの放送を行いました。

また、秋葉区自治協議会かわら版「あきはくはつものがたり」を編集・発行

しました。

オ 幸福度調査部会（特別部会）

秋葉区の地域資源とまちづくりの課題を明確にし、区自治協議会の活動や区政への反映を目的とした「秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査」を行うため、部会横断的に有志を募って特別部会を設けました。調査は2021年8月～10月にかけて行われ、15才以上の区民から無作為抽出により千件以上の回答を得ました。結果は区役所のホームページで公開するとともに、そこから得られた成果から新潟市長および秋葉区長への提言をまとめて提出しました。さらには、次期区ビジョンや特色ある区づくり予算事業編成のための基礎資料としても活用しました。

カ ひな・お宝めぐり部会（特別部会）

前期まで「きらめきサポートプロジェクト」の一環として小須戸コミュニティ協議会エリアおよび新津中央コミュニティ協議会エリアで実施していた「ひなとお宝めぐり」を拡大発展させ、区内の全地区を対象としたイベントとして実施しました。開催に向けて多くの個人・団体からの参画を得て、秋葉区民の一体感を醸成し、大盛況の内に終わることができました。

以上に記載の通り、秋葉区自治協議会では各部会が連携し合いながら役割分担をし、明確な目標の下に活発な活動を展開してきました。各々の事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

まちづくりに必要なものは、明確なビジョンの共有とそれに基づく正確な課題の把握、さらには高いモチベーションに支えられた行動力であると考えています。変化が早く不安要素の多い時代だからこそ、こうした筋の通った考え方と柔軟な思考・議論の両立が必要であり、それが機能する組織作りが求められています。今期の秋葉区自治協議会においては、まだ小さな課題は多々あるものの、概ね機能的な組織づくりと区民ニーズに沿った事業展開が図れたものと評価しています。

感染禍の中においても活発な議論とコミュニケーションを重視し、「秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査」「秋葉区ひな・お宝めぐり」といった特別なプロジェクトを実現できたことも大きな成果です。今後はこうした取組を通して生まれたつながりを継承するとともに、区内ひとつひとつの地区との連携を強め、行政と自律的な個々の地区、さらに自由な区民の活動を扇の要としてつなぎ、「議論と行動」を通して秋葉区全体のまちづくりのプラットフォームとしての役割を果たせるような組織に進化していくことを標榜したいと思います。

令和4年3月31日

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会(第1部会)

区分	内容
テーマ・事業名	きらめきサポートプロジェクト 【事業費予算 1,230千円】
事業目的・概要	地域コミュニティの活性化や福祉、防災、文化振興など、様々な地域課題の解決につながる取り組みを地域の団体と協働で実施し、「きらめく秋葉区」に向けたまちづくりを目指す。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>(1)アキハフジンロックフェスティバル [ドタミファソラシ堂] ・会議:9月7日(火)、12月10日(金) ・リハーサル:10月29日(金)秋葉区文化会館 ・オンラインで音楽ライブ、キッズヨガダンス、絵本読み聞かせ、秋葉区の紹介動画などを生配信:11月26日(金)15組参加、12月18日(土)17組参加、1月22日(土)8組参加、2月25日(金)11組参加 秋葉区文化会館 ・対面方式ライブ:3月8日(火) 10組参加 金津コミュニティセンター</p> <p>(2)田家～秋葉湖周辺案内地図設置事業 [新津中央コミュニティ協議会] ・会議: 8月28日(土)、10月5日(火)、2月24日(木)、3月18日(金) ・案内地図設置:①妙本寺、泉の道(3 清水)周辺②水無提周辺③諏訪神社周辺の3か所(上部に地図、下部に矢印表示 600×900mm)</p> <p>(3)クマ・イノシシなどの大型獣から命を守る安心安全なまちづくり [あきは害獣対策プロジェクト] ・会議:9月24日(金)、11月8日(月)、1月27日(木) ・勉強会:「秋葉区民をクマ・イノシシから守るために」12月12日(日) 新津地区市民会館 参加者 25名 ・広報活動:金津におけるイノシシの出現状況をテレビ放映、新聞報道 ・携帯用パンフレット作成配布: ①区内の小・中・幼稚園等 17校 7幼稚園 2月24日(木)5,758部 ②小学校 1校 2月25日(金)190部 ・クマよけスプレー配付:金津、山の手、新関コミュニティ協議会 3月8日(火)</p>

1 / 5

(次頁に続く)

	<p>(4)楽しみながら防災を学ぶ「イザ!カエルキャラバン!」を秋葉区で開催する [みそら野地区自主防災会] ・会議:9月5日(日)、9月15日(水)、11月7日(日)、12月11日(土) ・防災イベント:「イザ!カエルキャラバン!」1 1月28日(日)荻川コミュニティセンター 参加者96名</p>
<p>事業の評価</p> <p>地域課題の区自治協議会提案事業 事業評価抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</p>	<p>【個別事業】</p> <p>(1)アキハフジンロックフェスティバル [ドタミファソラシ堂] ・大切な子育てを楽しくやりたい。核家族化が当たり前になった社会の中で孤立化せず、大勢の人とつながっていくことは、育児の中で大切なこと。集まるのが難しくなってしまった社会の中から、今回の取り組みは興味深い。ママが元気なのは子供にとって一番。 ・朗読あり、散歩ありのオンライン。方向性は評価できる。 ・ZOOMでの参加、チラシ配布。なかなか結果に繋がらない。予算は具体的である。 ・子育て支援センター等を利用して参加者を募っており、地域性は評価できる。 ・対面ライブになれば参加者も増える。継続性は評価できる。 ・11月から毎月開催し、県外からの参加者ともつながりながら自宅での親子の時間を楽しむことに貢献していた。 ・秋葉朗読の会・高塚農園・パパママ銭湯といった地域の活動団体・企業とも連携し、秋葉区ならではの活動を展開していた。 ・オンラインによる事業展開は予算面で難があるが、視聴者である親子の喜び溢れる様子がテレビ画面に双方向的に表示され、瞬時にその状況に対応したパフォーマンスが可能となるものであり、子育て中の母親への連帯意識の醸成、支援意識の強化等、事業目的の達成には遜色はないと思われる。 ・オンライン実施について、参加者は設定等に煩雑な事前作業が必要となるが、それは支障とはなっていないことがうかがえる。 ・事業全体としては評価されるが、目的達成をより高めるためにはオンライン方式よりも対面による進行がベターである。</p> <p>(2)田家～秋葉湖周辺案内地図設置事業 [新津中央コミュニティ協議会] ・初めて秋葉山を訪れた人にとって分かりづらい場所だと思う。どこにどんなものがあり、ここを歩いていくとどこに出るのか、どこに繋がっているのかが分かるように分岐点案内地図を設置し、誰もが安心して安全に散策を楽しむことができるようになると思う。 ・秋葉山とその周辺の市民への認知度が向上し、秋葉区以外の人々が秋葉山</p>

	<p>を利用しやすくなり、遊歩道として歴史・文化を求めて散策などの活動をする人たちが増えることが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は田家周辺であったが、また来期もきらサポに応募し、昨年実施したMTBコース、キャンプ場、秋葉湖周辺、その他に分岐点地図を設置し、魅力ある地域作りを目指してってもらいたい。 ・案内地図が設置出来たらぜひ見ていただき、意見を聞きたい。 ・秋葉区の宝である秋葉山をアピールし、安心して散策できることは大切なことと思う。今後はもっと深く入り込んで、山全体の案内等に力を入れていくよう、継続的に進めていけたら良いと思う。更にキャンプ場の充実も望む。 <p>(3)クマ・イノシシなどの大型獣から命を守る安心安全なまちづくり [あきは害獣対策プロジェクト]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、個人が出来る事といえば、大型獣に出会わないことに尽きると思う。今回の取り組みは大変大切なことで、近隣市町村との連携も大切かと思う。そうなると、秋葉区のみ対応は非常に難しく、行政の出動もお願いしていく必要を感じる。 ・秋葉区山間の地域では大きな問題であると改めて感じた。あきは害獣プロジェクトの今後の展開に期待し、秋葉区役所も何か起こる前に補助をしていただきたい。 ・勉強会は、秋葉区の内情、クマ・イノシシ等に遭遇した時の対処法、遭遇しないための対策など実りある内容であった。広報が足りなかったのか、危機感・興味が少ないのか、30名弱の出席であったが、伝わったと思う。 ・このプロジェクトに関わることで、改めて身の危険が身近にあることを感じ、手遅れにならないよう対策しなければと思い、この企画の必要性を感じた。 ・開催された「勉強会」は、やはり多くの方々に参加していただきたいので定期開催ができればさらに良いと思った。 ・当面する地域の課題解決に的確に対応した事業であり、地域間の連携の構築強化に繋がる良好な事業であった。 ・子供達の登下校に於ける安心安全と、地域住民の猛獣対策の意識高揚を行った。 ・関係する地域と行政が一体となつての事業推進であり、大きい効果が期待されている。 <p>(4)楽しみながら防災を学ぶ「イザ!カエルキャラバン!」を秋葉区で開催する [みそら野地区自主防災会]</p>
--	--

・子どもの時から防災に関心を持ってほしいという思いは伝わったと思う。楽しく会場を巡っていた子どもたちの表情から、遊びやゲームの回数を重ねることで、自然と防災への関心が身に付いていたことがうかがえた。今回は参加人数を確保できたが、これからの課題は、どうアピールしていくのか、今回のような防災行事とするのか、イベントの中に繰り込んで実施するのか、選択方法は多いと思う。また、底辺を広げるためにも、小・中学生参加の学校行事にまで発展すれば良いと思う。参加賞は、防災に関係したグッズ（防災メガネ・水筒）やチョコレート味の非常食（ようかん等）と、今までの常識にとらわれない品物であった点は良かったと思う。

・採択団体が主体的に取り組んでいた。

・難しい状況であったが、実際に開催したことは評価できる。

・防災に関する自治会、コミ協の意識改革により、防災意識の高揚が認められた。

・家族内における防災の見直しと災害時における連絡体制の確立。

・防災に強い秋葉区の基礎作りの一助を担った。

・次年度も継続して訓練を望む声があり、好評で、地域の期待に応えた有意義な活動であった。

【全体を通して】

・第1部会の全員がそれぞれの開催日を共有し参加してもらえたら良かった。

・きらめきサポートプロジェクトでの4事業とも夫々個々の事業としてはそれなりの成果はあったと思われるが、事業の成果を未来にどう生かし秋葉区の活性化に繋げていけるのか（SDGs）。単発事業にならないような事業形態を構築する必要が有ると思う、例えば、自然環境豊かな秋葉丘陵を基軸にした「秋葉湖周辺案内地図設置事業」や、応募の有ったマウンテンバイクコースの整備や、近日ニュースになっている新津工業高校と民間企業のコラボによる「東屋」の新設など、秋葉丘陵整備をベースに自治協議会&秋葉区&民間事業者等が一体となった組織の構築が望まれる。秋葉丘陵は区民のみならず距離的にも交通のアクセスからも新潟市民全体の「憩いの場」としての要素は多めで、周辺地域からの流入人口による商店街の繁栄にも大きく関与する。新年度の事業に期待。

・各事業とも成果はあったと認められるが、継続性が求められる。

・地域課題解決のために、このプロジェクトは非常に良い企画だと感じる。動き出したけれどお金の面で動けないことを自治協議会がフォローする。また、自治協議会も絡む事で相乗効果もあると感じた。更になかなか関わりのない地域や団体の魅力や課題に自治協議会として気づきもあると思う。

・事業実施期間を長くとれるよう、工夫が必要であった。

<p>・事業の実施にあたり、区役所の関わりがもっとあってもよかった。</p> <p>・担当以外の事業の進行状況を自治協委員で共有する機会の必要性を感じた。また、自治協との連携の内容については、参加者と事務局、担当者間での理解の仕方が異なっていたため、あらかじめどのような意味で連携するのかについて確認しておくことでより円滑に活動を進めることができる。</p> <p>・担当者からの会議報告が提出されることで会場利用の減免等ができるようになるといった手続きの共有はあらかじめしておく必要がある。</p> <p>・きらめきサポートプロジェクト全体としては、とても良い企画だと思うので、実施した各プロジェクトの報告や広報を紙面記事のみならず、映像記録として残り、SNSなどで配信し、より多くの方々により楽しく見てもらうことができればさらに盛り上がっていくのではないかと思う。</p>
--

令和4年3月31日

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会(第2部会)

区分	内容
テーマ・事業名	公共交通利用促進 【事業費予算 300 千円】
事業目的・概要	<p>【事業目的】 「秋葉区生活交通改善プラン」に基づき、利用しやすい公共交通を検討するとともに、区内の公共交通情報を発信し利用促進を図る。</p> <p>【概要】 地域の実情に応じた適切な移動手段を検討するため、地域ごとに公共交通の利用状況や移動ニーズ等を調査する。 また、区バスの利用促進を図るため、時刻表等の情報を掲載したガイド等を作成・配布する。</p>
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>他地区の改善事例や失敗事例等の勉強を行って地域で何ができるかの議論を行った。その結果、公共交通を望む満日地区をモデルに移動手段を検討する体制を立ち上げ、コミュニティ協議会、町内会、民生委員・児童委員、社会福祉協議会と協議すると共に、アンケートにより地域の実態把握を行った。</p> <p>4月 「秋葉区公共交通ガイド」作成配布 6月 公共交通を望んでいる満日地区をモデルに議論 7月 江南区大洲地域買い物支援視察 満日コミュニティ協議会との協議 8月 公共交通の「育て方」講演会の開催 9月 満日地区、民生委員と他地区での生活交通支援事例を基に協議 4月発行のガイド、6月・10月改正を配信 10月 満日地区と協議し全戸アンケート実施を決議 11月 満日地区の生活交通支援検討会体制を議論 12月 「新たな移動手段の検討会」でアンケート作成 1月 全戸アンケート実施 2月 アンケートを回収し分析(回収率 77%) 3月 アンケート結果を基に今後の進め方を議論</p>

(次頁に続く)

<p>事業の評価</p> <p>地域課題の区自治協議会提案事業 事業評価抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実 効性・効率性の評 価など</p>	<p>【 評 価 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍だったが、地域と向き合って議論が出来たことは有意義だった。 ●コミュニティ協議会、町内会、民生・児童委員、社会福祉協議会、自治協議会の構成メンバーで「新たな移動手段の検討会」が発足できた。 ●全戸アンケートが実施でき地域の実態把握ができた。 ●当初は諦めムードの地域だったが、地域の人達と話し合いを重ねることで、地域、民生委員、社会福祉協議会、自治協議会の協働での生活交通実現の気運が高まった。 ●「秋葉区公共交通ガイド」を計画どおり作成、ダイヤ改正の配信を実施し、区バス等の利用促進に繋げた。 <hr/> <p>【課 題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●買い物、通院、通学、通勤、地域のお茶の間など、どの目的の生活交通支援をモデルにするかを検討すると共に、その移動に使用する車両等の確保と体制の構築が必要。 ●アンケートの結果、買い物や通院への要望が多くあり、既存の路線バス、住民バス、目的バスのルート、バス停、駅との接続など、改善検討が必要。
---	--

令和4年3月31日

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会(第3部会)

区分	内容
テーマ・事業名	Akiha おとな大学 【事業費予算 612 千円】
事業目的・概要	秋葉区の特色や史跡・旧跡、魅力ある歴史を学んでもらうことで地域への愛着や興味関心をさらに高めるとともに、学びを次世代に引き継ぐ、未来につながる主体的な学びの機会とする。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ●対象者:秋葉区在住の成人(20歳以上) ●募集定員:15名 ●申込者数:22名申込(23名申込のところ1名キャンセル) ●開催日程 【第1回】1月25日(火曜)9:00~12:30 秋葉硝子細工づくり体験と新津工業高等学校見学 【第2回】2月5日(土曜)10:30~11:30 JR東日本 新津運輸区 SL 保管庫見学
事業の評価 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 地域課題の区自治協議会提案事業 事業評価抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など </div>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●まん延防止措置により事業延期となったが、企画は秋葉区の魅力が詰まった良いものであり、応募者が予想以上に多かったことから、区民にとって興味・関心の持てる内容であったことが確認できた。 ●東京オリンピックの7人制ラグビー日本代表に秋葉区出身の原選手が選出されたことを受け、応援のぼり旗を作成・設置してエールを送った。 <p>【今後への提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●秋葉区の様々な魅力を知る「きっかけ」となるようなはじめての一步の事業実施から始め、次のステップとして深化を図っていけるような企画が必要。 ●コロナ禍での実施を考えたときに、屋外での開催も視野に入れるなどして、開催形式を検討しておく必要がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●延期した事業について、状況を見ながら実施時期を再検討し、実施する必要があるが、開催の決定については十分な熟議が必要。 ●コロナ禍でも実施できる内容や代替案、オンライン開催など開催形式の検討が必要。

令和4年3月31日

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会(広報部会)

区分	内容
テーマ・事業名	コミュニティFMを活用した秋葉区自治協議会PR事業 【事業費予算 828 千円】
事業目的・概要	秋葉区ならではの取り組みとして、秋葉区のコミュニティFMを活用し、自治協議会の活動や自治協議会かわら版「あきはくはつものがたり」のPRを行う。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>■FM版「あきはくはつものがたり」 毎月第2水曜日の12時00分から30分番組の放送 (再放送は同じ週の土曜日9時から)</p> <p>■スポットCMの放送 8～3月:合計放送本数250本</p> <p>■かわら版「あきはくはつものがたり」を活用したPR2号/年(運営事業費) 第27号:R3.9.5発行、第29号:R4.3.20発行 各号約22,000部発行し、新聞折込および個別配送のほか、公共施設等に配置</p>
事業の評価 地域課題の区自治協議会提案事業 事業評価抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など	<p>■コミュニティFMの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治協の活動紹介としては有効だと思う反面、決まった時間にスイッチを入れるという制約の縛りは強いと思った。再放送はあるにしても。 ・自治協で起こっていること、各部会が実施している内容等が秋葉区内の幅広い方々の耳に届くことは区民の興味・関心を高めることに繋がった。 ・秋葉区で起こっている様々なことを、秋葉区内で収めるのはもったいないので、区外や市外まで届くような広報もあっても良いかなと思った。 ・コミュニティFMを使っの自治協議会活動の情報発信は今後も必要だと思うが、どれだけの人に聞いてもらっているのか把握できないことが課題だと思う。 ・日常生活に密着し、身近な情報の発信が求められる「コミュニティFM」の活用は、とかく地域の方々に分かりにくく、見えにくいとされる人づくり、まちづくり等の事業推進のための広報媒体として、大きな効果が期待出来る。 ・ラジオ版「あきはくはつものがたり」の紹介を、年間を通じて自治協議会委員が所属部会メンバーとして担い、番組担当パーソナリティーとの対話を通してそれぞれの部会が提案し進めている事業について発信していくことは、情報の受け手である区民の関心を引き寄せ、又、発信者である委員にとっても、事業の現況や効果等を再点検出来る等、有効な取り組みである。 ・電波聴取エリアが狭い事や、放送の曜日、放送時間等制約が多いが、聴取

率は勿論のこと、年齢層等聴取者の属性もはっきりしない中で、提供番組に対するアンケート調査の実施や視聴者からの意見投稿を求め、番組構成に反映させる事も必要である。

■かわら版「あきはくはつものがたり」の発行

・形に残る、読み返しができるというのは強力。写真やマンガで、文章だけではスルーされることを防いでいると思う。

・4コマ漫画を取り入れ、文字だけでなく読者の興味を唆る紙面で工夫されていてよかった。

・近い将来、各プロジェクト等を紙面ではなく映像媒体で広報するのは有りかと思う。文字や写真だけでは伝えられない魅力や伝えやすさがあると思うので、検討していけたらと思う。

・コロナ禍の中、予定通り「あきはくはつものがたり」が発行できてよかった。

・年3回の発行のうち1回は区だよりの一面を使うことで区民に読んでもらえていると思う。

・様々な情報のデジタル化が進められているが、高齢者にとっては情報機器を通さず即視が可能な紙媒体である広報紙の有意性は高い。

・コミュニティ FM 活用との併用によるダブル効果は大きい。継続していくべきと考える。

・発行回数が少ないのでタイミングの良い記事掲載が難しい。

・近年の新聞離れから、広報紙受領不可世帯の減少対策の検討が必要である。

・新潟薬科大学の取り組みを紹介し、地域の方々に少しでも大学を身近に感じていただく工夫を施した。

■全体を通して

・目から入る情報は強いと思う。ポスターもその一つだが、現在はやはり映像かと思う。今年度の4コママンガは、一貫してもち麦にした。1回より2回とダメ押しで産業推進を図れば良いと思う。

・秋葉区の魅力発信をするためには、現在は映像での発信が一番効果的であると思う。

・自治協議会の活動の情報発信は SNS などの方法があるが、紙媒体での「あきはくはつものがたり」は高齢の世代にとって自治協議会を身近に感じてもらえていると思う。

・より良い広報活動を進めるため、広報部会研修を提案する。研修は、放送（アナウンスを中心とした）部門、広報（紙面作成を中心とした）部門の専門家による講義、実技等で構成する。

	<p>・できるだけホットな話題を迅速に地域の方々に届けることを意識しながら、コミュニティFMやかかわ版を通じた表現や演出を行ったことは評価できる。しかし、自治協が中心となって実施する様々なイベント、取り組みがまだまだ浸透していないことや一部の方々にしか知られていないことを実感することがある。FM での出演回数や放送時間の確保、新潟日報をはじめとするマスコミを上手に活用することも必要なのではと感じた。</p>
--	---

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会(秋葉区民幸福度調査部会)

区分	内容
テーマ・事業名	秋葉区民幸福度調査(秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査) 【事業費予算 800 千円】
事業目的・概要	(1) 区民自らが「秋葉区に暮らす幸せ」とは何かを考え、地域の資源と強みを再評価すると共に、地域の魅力を内外に発信するための材料を得る。 (2) 地域の課題を明らかにし、新潟市政および秋葉区政に反映させると共に、秋葉区自治協議会の事業立案の参考にする。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	(1) 調査票の発送による調査 ●期間 令和3年8月10日発送~8月末締切 ●対象者 令和3年4月時点で秋葉区在住15才以上の中から無作為抽出された2,000人 ●回答数 892件(うちWEBフォームでの回答115件) ●回答率 44.6% (2) WEBフォームによる一般募集 ●期間 令和3年9月6日~10月8日 ●回答数 143件 (3) 中学生対象調査(WEBフォームでの回答) ●期間 令和3年9月7日~10月8日 ●対象者 令和3年4月時点で秋葉区内の中学校に通う中学生1,966人 ●回答数 478件 ●回答率 24.3%
事業の評価 地域課題の区自治協議会提案事業 事業評価抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など	【評価】 この調査は、自治協議会メンバーの献身的な努力に加え、秋葉区役所および大正大学との協働作業や、NPO法人まちづくり学校による的確なアドバイスの結果として実現することができました。秋葉区はそこに住む人々にとってどのような存在なのか?そんな素朴な疑問から始まったプロジェクトでしたが、これを通して区民の意識という目に見えないものを様々な角度から可視化することができました。これによって得られたデータは地域の未来を描く上で大変貴重なものであり、行政への提言や協議会内の議論の参考とするだけでなく、自らが行動していくための礎として、秋葉区ならではのまちづくりのために活用していきたいです。また、この成果を共有することにより、秋葉区を愛する幅広い個人・団体の皆様の活動の中に活かしていただきたいです。(部会長 金子 洋二)

秋葉区自治協議会の提案事業であるこのアンケート調査は、貴重な資料であると改めて思います。この部会活動で、調査項目の組立てを学び、また分析の積み重ねを段階ごとに見ることができ、このプロセスで多くを学びました。調査結果では特に、環境に配慮した生活をしている人の割合が 88%に上っている。私たち秋葉区民が、この環境意識の高さを自覚することで、これからのまちづくりに生かせるのではないかと考えます。(副部長 長谷川 啓子)

このような大規模調査に企画段階から関与し、調査報告出来た事は貴重な体験であった。調査項目「住み良い」「住み続けたい」「愛着がある」の好結果により、8割を超える人達が幸せを感じているという『幸福指標』の高さに繋がり、更に特筆すべきは、県外出身者の6割が秋葉区に愛着を持っている事が示された事である。私たちの「秋葉区」も満更捨てたものではなく、この大切な意識基盤を活かして行く事にもっと力を注がなければならない。(荒井 武雄)

「秋葉区民幸福度調査」は私の知る限りでは初めての調査であり、報告書にもあるとおり年代別、地域別など様々な条件に於いて分析されており大変素晴らしい報告書だと思います。これは、金子会長の功績だと思います。この調査の成果を行政は多めに活用して問題点を点検し、自助・共助・公助のうち公助で区民がより暮らしやすい地域になる様な施策に役立てて欲しいです。(伊藤 治好)

秋葉区民の幸福度調査に強い関心を持ってメンバーにエントリーしました。「幸せとは何か」を自分に問うことに始まり、この調査項目に議論を重ね、アンケート用紙の配布作業をメンバーみんなで黙々とやり終えた時は何とも言いえない充実した気持ちになりました。調査の分析結果では「地域の助け合いについてやや心配」に注目しています。今ある立場でこの調査結果を今後どのように活かしていけばよいかを考えていきたいと思っています。(大貫 弘美)

幸福度調査は多々実施されていますが、身近に感じられませんでした。この調査を秋葉区で実施したことで身近に感じ、区の実態が把握できたことは大変有意義でした。初回の実施のため傾向は今後の調査に任せるにし、今回性別、年代別、住居別、出生別にみたことでデータの比較ができました。今後、この幸福度調査データが行政や希望者に公開・有効活用され、区民の「幸せ」の尺度として幸福度アップに繋がる事を期待します。(坂口 憲夫)

生活の利便性、自分らしい生き方の項目結果には予想外の数値。「日常生活

用品の買い物に不便していない」や「交通手段に不便がない」など、当初の予想に反した集計結果に驚きでした。「自然豊かである」「犯罪が少ない」「災害が少ない」など相対的に幸福で住みやすい調査結果に表れた。ちなみに未回収の意見が気になるところです。(保科 代志夫)

調査結果からは、区民の「安心・安全な居住環境」が確保されていることが明らかとなった。一方、就業環境の整備が不十分であること、日常の買い物への不安、子育てに関する情報提供・取得の課題が明らかとなった。また、青年期は他世代に比して地域への愛着が低く、地域とのつながりが希薄であると予測される。今後は、次世代を育成するという観点から地域課題をともに未来から考え、対話し、解決していくことが重要であると考えます。(渡邊 彩)

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会(秋葉区ひな・お宝めぐり部会)

区分	内容
テーマ・事業名	秋葉区ひな・お宝めぐり 【事業費予算 800 千円】
事業目的・概要	<p>【事業目的】</p> <p>昨年度まで小須戸コミ協と中央コミ協が協力して実施した「雛町屋めぐり、新津お宝めぐり」を秋葉区全域に広げることで、各コミ協、商店街の活性化を図るとともに、区内はもとより区外からの人の流れを生みだす。秋葉区の新春行事として育てたい。</p> <p>【概要】</p> <p>小須戸コミ協と中央コミ協だけではなく、区全体が関わることができる祭りとなるよう、区民誰も気軽に参加できるような取り組みを検討する。</p>
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>8月 自治協議会において、秋葉区全域で行うことを決議</p> <p>9月 1号委員全員と希望委員、計 16 名による横断的な特別部会として「秋葉区ひな・お宝めぐり」部会を立ち上げ以降、8回部会を開催</p> <p>10月 秋葉区全 11 コミ協が共催として係ること、多くの区民が気軽に参加できるように「つるし飾り」の制作協力を呼び掛けることを決定</p> <p>11月 「つるし飾り」制作説明会・講習会を、各コミ協、地域の茶の間等、 ~12月 地域主催で開催</p> <p>1月 区内 150 の団体から約 350 個の「つるし飾り」が集まる 会期を2月1日から3月6日までとしたチラシ・ポスターを作成後、 「まん延防止等重点措置」により、2月に行う予定だった広報物の自治会・町内会回覧を延期</p> <p>2月 「まん延防止等重点措置」の期間延長に伴い、当事業の会期延長を決定</p> <p>3月 3月7日から全会場で展示 当初のポスターに会期延長のシールを貼るとともに、新たに会期延長用のチラシを作成し、当初のチラシと一緒に回覧</p>

	<p>■つるし飾りの展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新津地域交流センター 50 団体 75 基 ・荻川コミュニティセンター 10 団体 20 基 ・新関コミュニティセンター 9 団体 30 基 ・小合地区コミュニティセンター 4 団体 15 基 ・金津地区コミュニティセンター 14 団体 19 基 ・小須戸まちづくりセンター 62 団体 155 基 ・その他(阿賀浦コミュニティ協議会、新潟薬科大学) <p>■ひな人形・お宝等の展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小須戸温泉健康センター 花の湯館 ・秋葉区文化会館 ・新津美術館 ・秋葉区役所 ・荻川コミュニティセンター ・新関コミュニティセンター ・新光商店街、0番線商店街、堀出神社 ・小須戸本町通り商店街
<p>事業の評価</p> <p>地域課題の区自治協議会提案事業 事業評価抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</p>	<p>【 評 価 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全 11 コミ協が共催となることで区全域に事業が広がった。 ●新潟薬科大学での取り組みも含め、多くの人と同じ目的に向かったことで、地域の絆をより強くし、地域活性化に大きく貢献した。 ●秋葉区ひな・お宝めぐり部会の積極的な部会活動で、部会員同士のチームワークや、部会員と事務局との連携向上が図られ、楽しく活動ができた。 ●コロナ禍で外出ができない中、「つるし飾り」の制作は、やりがいの創出、指の運動、認知症予防にも効果があると地域の茶の間等でも喜ばれた。 ●「まん延防止等重点措置」で、当初の開催期間ほとんどの会場が閉館だったが、会期を延長し、報道にも数多く取り上げられたこともあり、多くの人たちが各会場に訪れ、感動していただけた。 ●秋葉区全域の事業として特色あるまちづくりと交流人口拡大に期待できる。 ●手間や時間がかかることに地域住民に係ることこそ、地域づくりの醍醐味であると実感できた。 <p>【課題・今後への提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「お宝めぐり」「商店街の活性化」までには至らなかったことや、秋葉区以外の各地でも様々な雑祭を開催していることもあるので、今後、地域の行事を「お宝」として同時開催するなど、秋葉区らしい特色ある「ひな・お宝めぐり」の内容を検討していく必要がある。

	<ul style="list-style-type: none">●今回は、コロナ禍で自粛しすぎた感があるので、次回は、その場で参加できる企画や、車以外では行きづらい会場へのツアー企画など、集客のために検討していきたい。●9月からのスタートで時間が足りなかったので、「つるし飾り」資材の検討や、新たな企画の検討のためにも、早目に取り掛かりたい。●PDCA サイクルを回し、より良い事業とするため、次年度は来場者のアンケートを取り、客観的に貢献度を把握し反映していきたい。
--	--

(※令和4年度 秋葉区事業評価書は令和5年3月中に確定)

南区自治協議会（第8期）を振り返って

南区自治協議会会長 高橋 直廣

1 はじめに

第8期の南区自治協議会は、第7期から続くコロナ禍の中でのスタートとなりました。リモートによる参加や基本的な感染対策の実施など、委員の一人ひとりが気を配り、苦心しながらも会の運営を進めてきました。

感染対策のためにマスクを着用し、三密を避けるために会話もためらい、委員の素顔も分からず、和やかな雰囲気の中での会議の開催をめざしたものの、かなわなかったことが悔やまれます。また、地域におけるさまざまな取組においても、開催の是非、人数制限、規模の縮小など制限を強いられた2年間でした。

区自治協議会提案事業では、各部会が課題をどのように解決したらよいか知恵を出し合い、議論しながら計画を立てて実施しました。歯止めのかからない人口減少への対策、まちなかの活性化、市内8区の中で唯一鉄道のない南区にとって重要な課題である公共交通利用促進など、さまざまな事業が展開されました。

第9期に向けて、委員が区自治協議会運営で課題としている項目について、意見交換をしましたので、併せて報告いたします。

2 取組内容・成果・課題

(1) 全体会について

ア 会議運営方法の見直し

第7期から新型コロナ感染予防対策のため、必要に応じて全体会の書面による開催や事務局の一部のリモートによる参加を実施しておりました。今期は事務局に加え、委員も全体会や部会にリモートで参加できるよう環境を整えました。

また、スムーズな会議運営ができるよう、全体会終了後に毎回、会長・副会長の2役と事務局で振り返りの会議を行い、次回以降の会議に活かしました。

イ 南区自治協議会委員研修会の開催

令和3年度は、委員が南区の歴史に触れ、地域の魅力を再発見することにより、区自治協議会の活動がさらに活性化することを目的として「しろね大風タウンガイド」による白根商店街周辺のまち歩きを行いました。

令和4年度は、南区自治協議会委員の女性比率が低いことなどから、地域社会

における女性活躍の大切さや、意思決定の場への女性参画の必要性について学ぶことを目的として、南区出身でテレビコメンテーターの金子恵美さんを招き、講演会を行いました。一般参加者も募り、大勢の方が参加されました。

ウ 区ビジョンまちづくり計画

新潟市は令和 5～12 年度の市が目指す姿の実現に向けた指針である「新潟市総合計画」を策定しました。南区においても「南区区ビジョンまちづくり計画」を策定し、まちづくりの方向性を示しました。

南区自治協議会では、令和 3 年 12 月に開催された「区ビジョンまちづくり計画策定 南区自治協議会ワークショップ」や、各部会で協議を行い、よりよい計画となるよう意見を述べました。

(2) 部会・提案事業について

ア 第 1 部会

第 1 部会は、公共交通、防犯・防災、環境、建設、都市計画などの分野を所管します。

提案事業としての主な取組は「南区公共交通PR事業」（令和 3 年度）、「南区生活交通利用啓発事業」（令和 4 年度）、「南区防災啓発事業」です。

公共交通に関する事業では、区バスなどを利用する人に分かりやすい「公共交通ガイド」を作成しました。また、地域ごとのニーズを反映した視覚的で分かりやすい「my 時刻表」を 6 種類作成し、これを活用して地域の茶の間などへ出向き、PR 活動を行いました。

また、区バス・乗合タクシーの新規利用者を増やすため、複数人で乗車すると運賃助成が受けられる助成チケットを配布し、利用啓発を図りました。

南区防災啓発事業については、令和 3 年度は、防災意識の啓発を図るため、調査研究を行いました。令和 4 年度は、これを踏まえて、区内の危険箇所を把握し、掲載する情報の整理を行い、防災マップを作成しました。

イ 第 2 部会

第 2 部会は、健康・医療、福祉、教育、地域、男女共同参画などの分野を所管します。

第 8 期は「南区家族ふれ愛事業」と「出会いの場づくり事業」に取り組みました。

「南区家族ふれ愛事業」では、家族のつながりを大切にし、温かい家庭をつくることを目的として、11 月を「南区家族ふれ愛月間」と定め、南区内の小学 4 年生による絵画展、中学 1 年生による川柳・標語展を行いました。令和 4 年度は、「南区家族ふれ愛月間」により親しみを持ってもらうため、賞を設定し、受賞者に賞状と賞品を贈りました。

「出会いの場づくり事業」では、少子高齢化対策について重点的に取り組み、定住人口を増やすことを目的に婚活事業に取り組みました。

ウ 第3部会

第3部会は、産業、観光、文化・スポーツなどの分野を所管します。第8期は「まちなか活性化事業」と「しろね大凧と歴史の館の展示替えに関する調査研究」に取り組みました。

「まちなか活性化事業」は、地域の食や観光資源などの掘り起こしや「まちなか」の活性化を目的として、南区の特産品や農産物の販売イベントとまち歩きをリンクさせた「南区味わい市場」を令和4年度に開催しました。伝統ある六斎市と同時開催することで、露店市の魅力を知ってもらうこともできました。

「しろね大凧と歴史の館の展示替えに関する調査研究」は、館への誘客を図るとともに、白根大凧合戦を通年で楽しんでもらえるよう、館の施設長を始めとした凧合戦関係者と意見を交わし、館の床面に躍動感のある凧合戦写真のラッピングを施しました。

エ 広報部会

広報部会は、広報に関することを所管します。

第8期は「南区自治協議会だより」を各年度3回、計6回発行しました。

区自治協議会や部会の活動、まちづくり活動サポート事業の取組などを紹介し、区自治協議会をより身近に感じてもらえる紙面づくりに努めました。今期から、より多くの人から読んでもらえるよう、新聞折り込みではなく、区役所だよりの中に掲載することとしました。

オ まちづくり活動サポート事業

提案事業の一部を区内の地域活動団体などから募集し、区自治協議会が選定・採択して協働実施する「南区まちづくり活動サポート事業」は、令和3・4年度ともに7事業を採択しました。

この事業は平成30年度から実施しており、定着しているため、応募団体も多く、多様な事業が提案・実施されています。

令和3年度は、市内外に広く波及効果が見込まれる事業は2回まで申請できることに、令和4年度は応募対象者に民間企業や団体を加えることとし、より南区の活性化に寄与できる事業となるよう、募集要項を改正しました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

南区には言われて久しい課題が数多くありますが、人口減少、少子高齢化が他都市に比べても早いペースで進行し、より解決が困難になってきています。加えて、まちなかの活性化や区民の移動手段の利便性の向上など、第 8 期の南区自治協議会では、そうした困難な課題に対しても真摯に向き合い、一定の成果を上げることができたものと考えています。

地域づくりは地域住民や団体の皆さんが、自らが暮らすまちに関心を持ち、できることを助け合いながらやっていくことが重要です。南区では区自治協議会の活動など大勢の区民の皆さんの参画が進んでおり希望を感じます。

第 9 期では、男女を問わず幅広い年代の方からの多様な意見を反映し、地域と行政の協働の要としての役割が一層推進されることを期待します。

区自治協議会提案事業 事業評価書

南区自治協議会第1部会

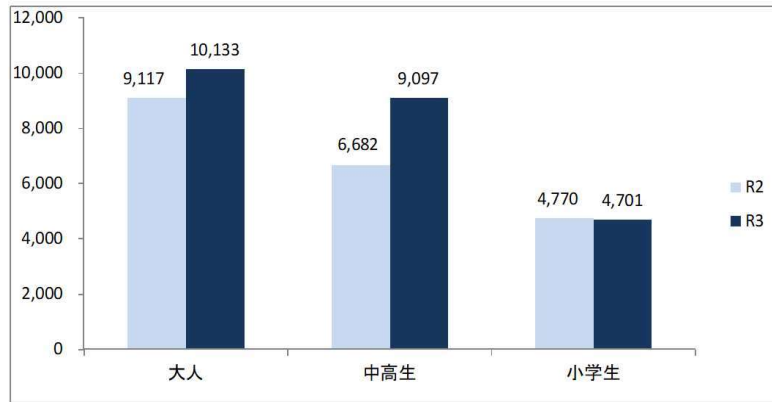
区分	内容
テーマ・事業名	・南区公共交通PR事業 ・南区防犯・防災啓発事業 【事業費予算 1,250千円】
事業目的・概要	【南区公共交通PR事業】 ・南区の区バス・住民バス・乗合タクシーの利用啓発を図り、利用者数増加につなげるため、情報紙などの作成や地域の茶の間でのPR等を行う。 【南区防災啓発事業】 ・防災意識の啓発のための活動を行い、安全で、住みよいまちづくりにつなげるための仕組みの検討等を行う。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	【南区公共交通PR事業】 ○公共交通利用促進事業の実施(新規) ・実施期間:7月19日～12月28日 ・実施内容:南区のグループの方が会議や町内行事等での移動、または乗車体験で南区バス・乗合タクシーの利用の際に乗車チケットにより運賃を助成する。 ・利用実績(別紙資料を参照) ○地域のニーズを反映した委員によるmy時刻表の作成(新規) ○南区公共交通ガイド、乗合タクシー利用チラシの作成、配布(継続) ○区バス協賛広告の更新(継続) ○医療施設や商業施設内にチラシを設置(21施設)、地域の茶の間で公共交通の取り組みPR(7ヶ所)(継続) 【南区防災啓発事業】 防災意識を啓発するため、大通コミュニティ協議会の資料を使用し、調査研究を行った。また当該事業を次年度への継続事業とし、今年度、部会の中で重ねた協議内容を活かすこととした。
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・有効性・効率性の評価など</small>	【南区公共交通PR事業】 ○昨年まで実施していた装飾バスの運行に代わり、今年度、利用者に直接的にバス運賃が助成される利用促進事業を実施した。 8月後半から9月に新型コロナウイルス感染症が拡大したため9月の利用実績は落ち込むも9月以降は地域の茶の間に外向き、事業PRを積極的に行ったことで事業の利用が伸び、昨年度に比べ利用が伸びている区バス・乗合タクシーの利用の後押しに繋がった。 ○各委員発案したmy時刻表について、現行の時刻表では分かりにくいという地域の声に対して、各地域で求められている時刻表のニーズを聞き取り、意見を反映させて作成した。今後、効果的な設置場所や配布方法について検討していく。 【南区防災啓発事業】 ○防災に関して、大通コミュニティ協議会の資料を使用し、調査研究を行うことで知識を深めるとともに、来年度作成予定である地域防災マップにつながるアイデアが生まれた。
備考	

※裏面あり

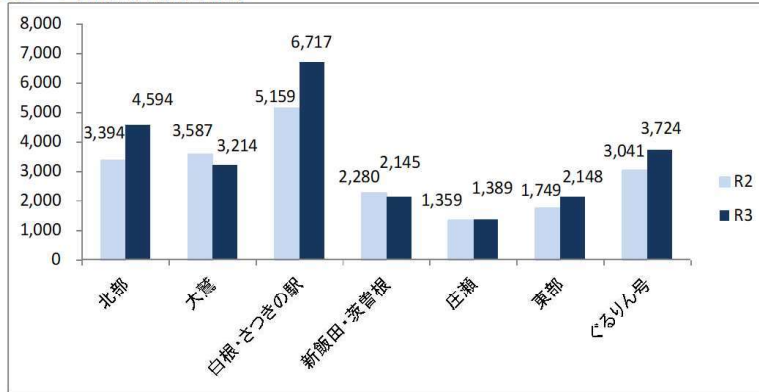
(次頁に続く)

区バス・乗合タクシー利用実績(4～12月)

●区バス利用者別推移



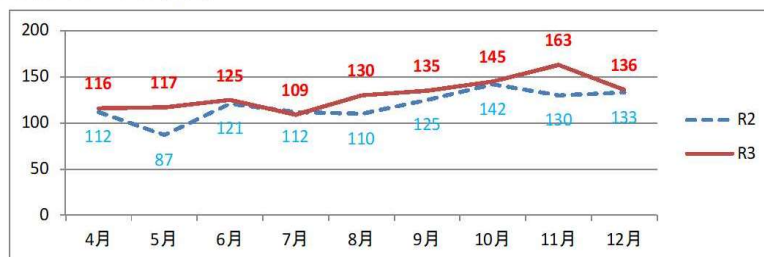
●区バス路線別利用者推移



●区バス月別利用者推移



●乗合タクシー利用者推移



区自治協議会提案事業 事業評価書

南区自治協議会第2部会

区分	内容
テーマ・事業名	<ul style="list-style-type: none"> ◆南区家族ふれ愛事業 ◆南区出会いの場づくり事業 <p style="text-align: right;">【事業費予算 1,250千円】</p>
事業目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆南区家族ふれ愛事業の10年目として、児童・生徒の絵画・川柳展を行い、「家族ふれ愛月間」のさらなる定着を図る。 ◆少子化対策、晩婚化・未婚化対策、定住化の促進を目的として、独身の男女を対象に、南区での出会いイベントを開催する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ◆南区家族ふれ愛事業 <ul style="list-style-type: none"> ○南区「家族ふれ愛月間」絵画展、標語・川柳展の開催 <ul style="list-style-type: none"> ■日時:令和3年11月6日(土)～11月30日(火) ■会場:白根学習館1階 交流広場 絵画展/標語・川柳展 展示総数:679点 <ul style="list-style-type: none"> ・(絵画)南区内小学校4年生の児童349人から出品があった。 ・(標語・川柳)南区内中学校1年生の生徒330人から出品があった。 ※地区文化祭、地域生活センターで絵画・川柳展示 展示箇所:臼井中、臼井小、庄瀬小、月潟中、大通地域生活センター ◆出会いの場づくり事業 <ul style="list-style-type: none"> ○「クリスマスパーティーinサルナート」の開催 <ul style="list-style-type: none"> ■日時:令和3年12月12日(日) 午後2時から ■会場:サルナート 参加者:男性20人、女性16人 ※9組のカップル誕生 ・ゲーム大会等により交流を図り、カップリングを行う婚活イベントの実施。
事業の評価 (地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)	<p>自治協議会各部会でワークショップを実施し、各々が考える地域課題の抽出と問題意識の共有を図った。同協議会第2部会では、「若者の定住率向上(少子高齢化対策)」を最重要課題と位置付け、課題解決に向けて取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆南区家族ふれ愛事業 <ul style="list-style-type: none"> 【評価】 <ul style="list-style-type: none"> ○南区「家族ふれ愛月間」絵画展、標語・川柳展 <ul style="list-style-type: none"> ・例年より出品数が多く、見応えのある展示になった。 ・アンケート結果からは「子どもたちは父母の姿をよく見ていることがわかる」、「子どもたちにとって家族がいかに大切な存在であるかを改めて教えてもらった」などの感想が寄せられ、家族のふれあいを意識づけるよい機会となった。また、「今年も楽しみにしていた」「この展覧会を続けてほしい」などの声もあり、本事業が深く定着してきている。 【課題及び今後の取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は出品数が多く、これまでのレイアウトだと展示しきれなかったため、今後展示方法の検討が必要である。 ・小学生の絵画出品については保護者や学校から負担の声も聞かれるため、対象や募集方法を見直しながら継続していく。 ・今年度は例年行っていた上映会等のイベントを行わなかったが、今後どのような内容が本事業として有意義か検討していく。 ◆出会いの場づくり事業 <ul style="list-style-type: none"> 【評価】 <ul style="list-style-type: none"> ・男性は定員を超える応募があったが、女性は16人で定員に届かなかった。 ・昨年度に続きコロナ禍での開催となったが、感染症対策を施しながら実施することができた。 ・昨年度の参加者アンケートの声を活かして、話す機会をより多く作ることができた。カップル数も9組成立し昨年度の6組を上回った。 ・参加者アンケートからは、「大変楽しく有意義なパーティーだった」「また参加したい」というような感想が寄せられ、本事業へ期待が感じられる。 【課題及び今後の取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・カップル数は多く成立したが、女性参加者が最後まで集まらなかった。継続5年目の事業であり、開催内容や周知方法を見直ししていく必要がある。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

南区自治協議会第3部会

区分	内容
テーマ・事業名	<ul style="list-style-type: none"> ◆しろね大凧と歴史の館の展示替えに関する調査研究 【事業費予算 1,000千円】 ◆まちなか活性化事業
事業目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆しろね大凧と歴史の館の展示替えに関する調査研究 <ul style="list-style-type: none"> ・白根大凧合戦が単に凧揚げではなく「凧合戦」であることを来館者にアピールし、誘客を図ることで凧の文化を広く啓発することを目的に、しろね大凧と歴史の館の展示替えに関する調査研究を行う。 ◆まちなか活性化事業 <ul style="list-style-type: none"> ・白根のまちなかを会場に南区の特産品や農産物の試食販売イベントとまち歩きをリンクさせ、地域の食や観光資源等の掘り起こしを行うことで魅力の再認識を促し、中心商店街の活性化を図る。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ◆しろね大凧と歴史の館の展示替えに関する調査研究 <ul style="list-style-type: none"> 同館の展示替えを通じて広く凧の文化を啓発するため、以下のとおり調査研究を行った。白根大凧合戦の関係をはじめ、学芸員を有する同館職員なども招へいし意見交換を重ねた。当該事業を次年度への継続事業とし、今年度の成果を展示替えに活かすこととした。 ■実施回数：令和3年5月～令和4年2月 計8回（9月・1月は新型コロナのため中止） ■会場：しろね大凧と歴史の館ほか ■参加者：区自治協議会委員、南区観光協会、凧合戦協会、しろね大凧と歴史の館職員、南区産業振興課職員など ◆まちなか活性化事業 <ul style="list-style-type: none"> ○しろねの宝さがしとまち歩きの開催 新型コロナウイルスの影響により、感染拡大防止の見地から予定していた当該事業は中止せざるを得なかった。
事業の評価 <small>（地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価など）</small>	<p>自治協議会各部会でワークショップを実施し、各々が考える地域課題の抽出と問題意識の共有を図った。同協議会第3部会では観光の振興を最重要課題と位置付け、課題解決に向けて取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆しろね大凧と歴史の館の展示替えに関する調査研究 <ul style="list-style-type: none"> ・南区の特徴の一つで大切な伝統文化でもある「白根大凧合戦」に改めて着目し、特色ある区づくりに資するため調査研究を行った。様々な立場の関係者から意見聴取し、その思いや現状と課題について再認識することができ、改善策等について意見交換を重ねる機会を得ることができた。凧合戦会場の臨場感が得られるような工夫策や、視覚だけでなく聴覚等にも訴える演出など様々なアイデアが生まれた。 ・これらの事業成果を次年度に引き継ぎ、具現化できるアイデアから着手し、展示替えに取り組むこととした。 ◆まちなか活性化事業 <ul style="list-style-type: none"> ○しろねの宝さがしとまち歩き ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、中止を余儀なくされた当該事業を次年度に引き継ぎ、実施することとした。 ・まち歩きを通して南区白根の歴史を再認識してもらうとともに、南区産の果物や野菜、銘菓などを味わい南区を広くPRする事業を実施する。
備考	

令和4年3月29日

区自治協議会提案事業 事業評価書

南区自治協議会(全体会)

区分	内容
テーマ・事業名	南区まちづくり活動サポート事業 【事業費予算 2,500千円】
事業目的・概要	地域活動団体と連携することにより今まで以上に効果的な事業展開を図るため、南区ビジョンまちづくり計画に掲げる様々な地域課題の解決につながる取り組みを、南区内に主たる活動拠点を有する地域活動団体から1事業につき50万円以内で募集して事業委託する。(過去に本事業で実施したことのある場合は30万円以内)
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>◆災害を乗り越えられるまちづくり【庄瀬地区自主防災会】 講師を招いて防災計画の必要性についての研修会やワークショップを開催し、地域全体で防災について考え、「庄瀬地区防災計画」を作成し、全戸配布した。</p> <p>◆笹川邸こども学芸員【味方地区コミュニティ協議会】 「平澤興」、「曾我量深」の二人の地域の偉人のキャラクターを生み出し、また地域の宝「笹川邸」について小中学生が学び、小学校6年生による笹川邸応援マップや小中学生による動画の作成を行い、広くPRを行った。</p> <p>◆月潟地域における文化資源の調査・研究とコンテンツ化【月面構想】 地域の財産である角兵衛獅子のより広い活用・周知することを目的に、学芸員や専門家の協力を得て、情報発信に活用できる映像やWEBページとして時代に沿ったアーカイブ発信しやすい形にした。 全国的にみても貴重な資源であるかつての月潟劇場を様々な専門家の助言等を受けながら劇場の調査・整備を行い活用方法を探った。</p> <p>◆写真と映画で語る白根大風合戦と商店街【写真と映画で語る白根大風合戦と商店街実行委員会】 白根今昔写真展「白根大風合戦と商店街の今昔」、白根今昔写真クイズ「この写真、今はどこ?」、ドキュメンタリー映画の上映「白根紙鳶見聞録 風ノ国」を行った。南区の地域の歴史や個性ある伝統・文化を知り、地域の方々の交流のきっかけづくりを行うことができた。</p> <p>◆こばやしの歴史地図作成【小林コミュニティ協議会】 コロナ禍のため、当初予定していた小学生の不参加は少し残念だったが、当協議会防犯部が主体となって、小林小学校PTAと連携し、小林地区の石碑等について現地での調査・取材を行い「こばやしの歴史地図」を作成し、小林地区の全世帯へ配布した。</p> <p>◆「かんたん おいしい おうちごはん」食育教室事業【新潟市食生活改善推進委員協議会 南支部】 昨年度作成したレシピ集を活用して、講話、調理実習などの食育体験を行った。コロナ禍のため、当初の予定より活動の制限があったが、保育園、小学校や地域行事などで、1773人に普及啓発を図ることができた。</p> <p>◆スカイランタン打ち上げ事業【月潟商工会青年部】 2021年も新型コロナウイルスのまん延が収まらず、月潟まつりや大道芸フェスティバルなどの地域行事も中止となり、閉塞感の漂う日々が続いたが、スカイランタンの打ち上げに加え、旧月潟駅の夜間開放や竹灯籠の設置を行うなどして、月潟地域の活性化を図ることができた。</p>
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>○ 採択されたそれぞれの団体から、コロナ禍ではあるが工夫をして地域の魅力を最大限に発信し、南区の活性化につながる個性あふれる事業が展開されていた。</p> <p>○ 区内の様々な地域活動団体から事業の提案やその取り組みにより、自治協議会のPRにつながることも、応募団体の活性化にも寄与することができた。</p> <p>○ 次年度は、より効果的な協働の推進と事業展開することを目的として、企業・団体も応募できることとし、審査基準を見直すなど募集要項を変更し、事業提案を募集する。</p>

(※令和 4 年度 南区事業評価書は令和 5 年 3 月中に確定)

西区自治協議会（第 8 期）を振り返って

西区自治協議会会長 大谷 一男

1 はじめに

人口減少や少子高齢化が進む中、地域課題は複雑多様化しており、これまで以上に区民や行政と協働し、課題解決のために取り組んでいくことが重要となっています。

今期は、西区自治協議会として重点を置く地域課題を「環境美化」「支え合いの取り組みの輪を広げる」「区の魅力発信・賑わい創出」として取り組み、「地域の担い手育成（自治会・民生委員・児童委員）等」については、令和 3 年度にて一区切りをつけ、令和 4 年度からは新たに「防災」について取り組みました。また、今期は次期西区区ビジョンまちづくり計画策定の時期となっていたことから、計画策定に向けたアンケート調査についても取り組みました。

第 7 期に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、徐々に地域活動が再開され、西区自治協議会においても、参加手法にリモート参加を取り入れるなど、環境に合わせた会議開催を模索しながら、協働の要としての役割を停滞させることの無いよう努めました。

第 9 期の西区自治協議会において、さらなる地域課題の解決に取り組んでいただけのように、第 8 期の成果や取組をここに報告いたします。

2 取組内容・成果・課題

(1) 本会について

ア 次期西区区ビジョンまちづくり計画策定に関する議論

平成 27 年に策定された西区区ビジョンまちづくり計画が令和 4 年度で満期となることから、第 8 期は次期西区区ビジョンまちづくり計画を策定するためにさまざまな議論を重ねました。

委員全体ではワークショップを実施し、現在の計画に基づき実施されてきた取組と成果を検証するとともに、次期西区区ビジョン策定に向け現状認識と将来の課題を把握することを目的に意見交換を行いました。

各部会においては所管する分野を中心に議論をかわし、次期西区区ビジョンまちづくり計画が、より地域課題に沿った内容となるよう積極的に意見出しを行いました。

イ 区自治協議会における議論の活発化

第8期においては、部会の垣根を越えて、委員全体で活発に議論を行うことを目指し、部会での取組とは別に、「防災」をテーマとして委員全体で取り組みました。委員を対象に防災についてのアンケートを実施し、回答する際は委員個人のみではなく、所属団体の意見も併せて吸い上げを行い、委員間で共有を行いました。また防災に関するワークショップを行い、委員同士で活発な議論を行いました。将来的にはテーマを設けずとも、区自治協議会で常に活発な議論が行われることを目指します。

ウ 西区自治協議会委員研修会の実施

西区自治協議会では、第8期に区独自の委員研修会を2回実施しました。

令和3年度は、昨今課題解決の指標とされているSDGsについて理解を深めるために、講師の先生を招いて勉強会を実施しました。

令和4年度は、今期西区として重点を置く地域課題としても取り組む「防災」について、講演会を開催し、多発する災害に備えるための知識を得る研修会を実施しました。

(2) 部会・提案事業について

ア 第1部会

第1部会は、防犯、防災、自然環境、住環境分野を所管する部会です。

第8期では、自然環境、住環境分野である「環境美化」を重点的に取り組む地域課題として活動を行いました。令和3年度に現地調査としてごみ拾いを行い、市関係課やごみ拾いSNS開発会社との意見交換を実施しました。令和4年度は、前年の現地調査や意見交換で見た西区の課題を解決するため、区民の環境美化意識向上につながる2つの事業を実施しました。1つ目は、区内で活動する企業や団体等にパートナーとなってもらい、西区自治協議会が指定したごみの多い場所でごみ拾いを実施してもらう「パートナー制度」です。2つ目は、ごみ拾いSNSピリカを活用し、西区内でごみ拾いをした様子を投稿してもらう「さぁチャレンジ！あなたもできます。#西区をきれいに！！」です。

イ 第2部会

第2部会は、保健・福祉、文化・スポーツ、教育分野を所管する部会です。

第8期では、重点的に取り組む地域課題である、「支え合いの取り組みの輪を広げる」を念頭に、令和2年度に選定した「支え合いの大切さ」を広める標語の最優秀賞を用いたポスター・チラシを作成し啓発活動を行いました。また、現在の西区民の「支え合い」に対する認識と行動の実態をアンケート及びワークショップによって把握し、より多くの西区民が「支え合い」に踏み出すための手法を検討しました。

ウ 第3部会

第3部会は、産業、区の魅力発信、交通分野を所管する部会です。

令和3年度は、「区の魅力発信・賑わい創出」を重点的に取り組む地域課題とし、地域活動団体から課題解決につながる提案を募集し、地域活動団体とともに課題解決に向けて取り組みました。令和4年度は、西区を好きになり住み続けてもらうために、重点的に取り組む地域課題を「魅力発掘」に改め、西区にあるさまざまな魅力を掘り起こし、親しみを持ってもらえるよう「西区八景」と名付け選定しました。西区ホームページや西区自治協議会広報紙に掲載しました。

また、区の魅力を発信するためのプロセス等を学ぶ機会として、新潟経営大学観光経営学部の出口高靖教授から講義いただき、意見交換を実施しました。

エ 広報紙特別部会

広報紙特別部会は、西区自治協議会広報紙「西区を豊かに」の編集・発行を所管する部会です。

区自治協議会の活動を広く区民に周知し、認知度を上げる目的で、広報紙「西区を豊かに」を第8期に6回発行したほか、西区だよりで、区自治協議会特集を2回掲載いただきました。構成にあたっては、多くの方に読んでもらえるように、特集や連載企画を織り交ぜながら、手に取ってもらえる紙面づくりを心掛けました。

SNSに広報紙の記事を掲載することで、紙媒体では情報が行き届かない方への情報発信につなげることができました。区民参加型の企画としてとっておきの写真を募集する、「とっておきの私の一枚」を実施したほか、クロスワードパズルを掲載し、回答の際にいただくアンケートでは、区自治協議会に対する多くの意見や感想を得ることができました。

今後も区自治協議会の認知度を高めるため、親しみやすい紙面づくりに一層努めていきます。

オ アートフェスティバル特別部会

アートフェスティバル特別部会は、西区アートフェスティバルの企画・実施を所管する部会です。

区内の文化風土を耕して区民の一体感を醸成するため、区内で音楽・芸能やアート表現に取り組む方々の発表の場として、西区アートフェスティバルを年1回開催しました。そして、区内の大学・小学校・福祉事業所と連携し、アート作品展示・「おん×てっく（おんてっく）」を実施して好評でした。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

今期は、計6つの重点的に取り組む地域課題の解決に向けて取組を行い、事業内容に合わせて委員自身で取り組む手法と、地域活動団体から事業を募集する手法を取り入れることで、効率的に課題解決に向けて審議、事業実施を行うことができました。

来期も事業に合わせた手法をとることで、効率的かつ効果的に地域課題の解決に向けて取り組んでいきたいと考えております。

課題としておりました、本会での活発な議論も、「防災」という地域課題について部会の垣根を越えて議論することで、普段事業を共にしない委員同士での意見交換の機会を設けることにつながりました。来期も、部会と同様に本会でも活発な議論が行われるよう、引き続き取り組まれることを期待します。

第9期は、このような点を踏まえ、区民と市の「協働の要」として、活動の活性化がさらに図られることを願います。

令和4年3月25日

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	環境美化 【事業費予算500千円】
事業目的・概要	ごみ拾いSNSを活用する等、ごみを拾う人を増やし、ごみを捨てる人の行動変容を引き起こすことで、ごみのないきれいな西区を目指す。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ・区民が自ら日常的にごみ拾いをするにつなげる提案を令和3年7月1日から31日まで募集したが、応募団体が現れなかったため、業務委託方式から直営方式に切り替え事業を実施。 ・10月の部会開始前の時間を活用し、西区のごみの現状を把握するために流通センター東公園、鳥原高速バス停付近の高速道路側道の現地視察を実施。 【成果】 2時間で45ℓごみ袋約90袋分のごみを拾うことができた。 ・同日の部会では、廃棄物対策課を交え、西区のごみの現状と市の環境美化の取り組みを共有。 また、ごみ拾いSNSピリカの操作方法や活用方法等について、アプリ開発元である株式会社ピリカからzoomを用いて説明を受け意見交換を実施。 ・12月部会ではごみ拾いSNSピリカを実際に部会メンバーがダウンロードし、「#(ハッシュタグ)西区をきれいに」を付けて試験的に投稿を開始。 【成果】(令和4年3月11日時点) 投稿数:31件
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に現地視察を行うことで、西区のごみの現状を知ることができた。 ・ごみ拾いSNSピリカをダウンロードすることで、ピリカの操作性などを体感することができ、ごみ拾いを気軽に楽しめることを実感した。 ・外部の方の話を聞き意見交換することで、新しい視点を事業に取り入れることができ、また、次年度事業検討の際にも柔軟に事業を計画・実施することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区は農村部から都市部まで様々な地域特性をもった地域であるため、各地域でごみの状況は様々である。西区をごみのないきれいなまちにするために、長期間地域や地元企業等と協力しながら取り組む必要があると考える。
備考	

令和4年3月25日

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	「支え合いの大切さ」を広める標語等活用 【事業費予算 500 千円】
事業目的・概要	「支え合いの大切さ」を広める標語を用いたチラシ等による啓発を実施し、標語をこれまでに以上に拡散することで、能動的に他者の困りごとに気づき行動できる人を増やす。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>①標語を用いたポスター・チラシによる啓発活動</p> <p>1事業対象者 未来の地域の支え手となりうる30歳代～40歳代の子育て世代を中心とした全世代</p> <p>2啓発方法 最優秀賞作品「支え合い 勇気を出して 声かけて」を使用したポスター・チラシを作成し、配布・掲示することで啓発を行う</p> <p>3配布・掲示先 <ポスター> 小・中学校、商業施設、社会福祉施設、医療機関、郵便局、地域団体、行政施設 約840部配布 <チラシ> 小・中学校、行政施設 約13,200部配布</p> <p>②「支え合いの大切さ」を広める標語使用基準の周知 令和2年度に作成した「支え合いの大切さ」を広める標語の使用基準について、自治会・地域コミュニティ協議会宛てに積極的な活用の依頼を行うことで、「支え合いの大切さ」の周知につながるよう努めた。 標語使用届提出状況:6件(自治会広報紙への使用 など)</p>
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>【地域課題の抽出方法とその解決策】 平成30年1月の大雪を機に、地域での支え合いの大切さが再認識され、普段からこのことを意識してもらおうきっかけとして標語を募集した。より多くの人に「支え合いの大切さ」を意識してもらうように、この標語を用いてポスター・チラシによる啓発活動や、標語の使用基準を定め誰でも標語を用いることができる環境を整えた。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター・チラシは「普段のあいさつやちよとした声かけも支え合いになる」という意図を盛り込んだデザインにできた。 ・チラシを小・中学校の全児童に配布することで、親子で改めて「支え合い」について考えるきっかけとなった。 ・学校のみならず、商業施設や医療機関など多くの世代が利用する施設にポスターの掲示依頼をすることで、子育て世代以外の年代にも「支え合いの大切さ」を啓発することにつながった。 ・地域団体等に標語を活用いただくことで、より広く「支え合いの大切さ」を広めることができた。 <p>【課題】 標語の募集や啓発活動などのきっかけづくりをしているが、能動的に他者の困りごとに気づき行動できる人が増えたかどうかは測定が難しい。しかし、「支え合いの大切さ」を広める活動は継続して行う必要がある。</p>
備考	

令和4年3月31日

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	区の魅力発信・賑わい創出 【事業費予算500千円】
事業目的・概要	住み始めて間もない子育て世代に今後も住み続けたいと思ってもらえるような西区を目指し、魅力を発信。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の解決に取り組む団体から課題解決につながる提案を募集し、協働して取り組んだ。 【事業名】文芸の故郷ガイドブックの作成と地域への誇りと愛着の醸成 【実施団体名】越後新川まちおこしの会 【内容】文芸の人を多く輩出する地域の紹介という観点から内野・五十嵐地区を紹介するガイドブックを作成し、内野・五十嵐地区の新たな魅力を探るとともに、新たなまちおこしのきっかけとした。 <ul style="list-style-type: none"> ・文芸の故郷巡礼ガイドブックの作成 作成部数・・・2,500部 配布先・・・西区自治協議会委員、地域の小中高等学校、取材協力者、講演会聴講者など ・小中学校PTA対象の『親が子に語る内野の新たな魅力と誇り』講演会は、新型コロナウイルス感染症により、事前収録した映像をオンラインで配信し、アンケートを実施した。 ・新潟西海岸の魅力再発見ツアーを実施 7月部会開始前の時間を活用し、原澤委員の提案による西区の魅力を海の視点から再発見するツアーを実施。 ・外部講師による魅力勉強会を実施 1月部会では、新潟経営大学観光経営学部観光経営学科出口教授より、「西区の魅力発信について」というテーマで講義いただき、意見交換を実施。 ・新潟国際情報大学 澤口ゼミ生による研究発表を実施 3月部会では、新潟国際情報大学国際学部3年澤口ゼミの学生による「拠点設置による地域資源の活用と地域活性化」というテーマで研究成果の発表を実施。
事業の評価	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内野・五十嵐地区から輩出された文芸の人をガイドブックを通じて多くの方に知ってもらえることができた。 ・『親が子に語る内野の新たな魅力と誇り』講演会では、コロナ禍で一堂に会しての講演会はできなかったが、内野中学校で実施した講演内容を内野小PTAへ配信し、125回再生された。 ・外部講師による魅力勉強会では、他都市の魅力発信事例等を織り交ぜながら講義いただき、意見交換により理解を深めることができた。 ・次年度事業の検討の際には、今までになかった視点を取り入れながら事業を検討することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案募集事業では、自治協議会が解決したい課題と、提案団体の提案内容との間での課題認識のズレを解消することができなかった。 ・文芸の故郷については、今後も継続して内野・五十嵐地区の魅力を発信し、地域を盛り上げていく必要がある。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	<p>第9回西区アートフェスティバル 【事業費予算 1,700 千円】</p>
事業目的・概要	<p>【目的】 ・西区全体の文化風土を耕して区の良さを再確認し、愛着を持てるようにする。 ・西区でアートの表現活動に取り組んでいるアーティスト等に発表の場を提供し、幅広く区民から知ってもらおう。 ・大学などと連携を深め、学術・文化豊かな西区の魅力を発信する。</p> <p>【概要】 ・西区自治協議会と新潟大学が共催で実施。 ・「音楽・芸能」分野の団体を対象にした発表の場として「アートフェスティバル」を実施し、音楽を通して区民の地域交流を深める。また、西区にちなんだ多様な「アート作品」展示を行う。</p>
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p><音楽・芸能団体発表> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止</p> <p><おん×てつく～音と光のコーナー～> 令和3年10月23日(土) 13:00～17:00 黒崎市民会館 新潟大学工学部人間支援感性科学プログラムの学生がピアノ演奏や音楽作品によって、音と光が融合した空間を制作。</p> <p><アート作品展示> 令和3年10月23日(土)13:00～17:00、10月24日(日)9:00～16:00 黒崎市民会館</p> <p>【作品内容】 ①新潟大学工学部によるアート作品 ②アール・ブリュット作品 ③区内小学生の自由研究優秀作品 ④新潟国際情報大学写真部作品</p> <p><来場者延べ人数>:460人</p>
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<p>◎アートフェスティバル 【地域課題の抽出とその解決策】 西区は、坂井輪地域・西地域・黒崎地域の3地域で構成されているが、西区が一体となった文化活動を行うため、アートの表現活動に取り組んでいる方々に発表の場を創出し、大学等と連携を深め区民の一体感の醸成を図った。</p> <p>【アンケート結果】 ◆調査方法：来場者を対象に当日アンケート配布を行い、退場時に回答。 ◆有効回答：226名（有効回答率49.1%） > 「おん×てつく（音と光のコーナー）」はどうだったか [とても良い…59.5%、まあまあ良い…31.1%、ふつう…8.5%、やや不満…0.9%、大いに不満…0.0%] > 「アート作品展示」はどうだったか [とても良い…63.5%、まあまあ良い…31.2%、ふつう…4.3%、やや不満…1.0%、大いに不満…0.0%]</p> <p>【評価（成果）】 ・来場者から、普段接することが少ない学生との交流ができて良かったとの感想を多数いただいた。 ・コロナで発表の機会が少ない学生や障がいがある方に、発表の機会を提供でき喜んでいただくことができた。 ・学生と自治協委員が自ら企画し、そして、受付などの運営も行い、様々な作品や体験コーナーで多くの方に楽しんでいただくことができた。学生と自治協委員との交流が生まれたこともよかった。</p> <p>【課題】 ・自由研究優秀作品は、手を触れていいものとダメなものを分け、作品内容がより良く見えるよう工夫すれば良かった。 ・音楽・芸能団体発表はコロナのため中止としたが、コロナ禍での判断が難しい。 ・団体からは、中止となり非常に残念だったという声も聞かれたが、次回声がけができるのではないか。</p>
備考	

令和4年3月25日

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	地域の担い手育成等 【事業費予算300千円】
事業目的・概要	地域の担い手不足等の解消のヒントとなる取り組みを実施する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>1 昨年度事業の振り返り 昨年度事業で行ったリーフレット作成結果を踏まえて、地域の担い手育成についての実情はどのような状態か振り返り・分析をした。</p> <p>2 今年度および今後の方針について検討 昨年度の振り返り・分析の結果、近い将来の担い手については地域ごと様々な手法で選定に至っているという意見が多く見られた。一方で、今年度委員全体に特色ある区づくり事業として取り上げて欲しいキーワードについて調査を行ったところ、若年層の地域参加という声が多数見受けられた。 この結果を踏まえて、担い手育成について今後自治協議会としてどのように取り組んでいくべきか議論を進めた。</p>
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<p>【地域課題の抽出とその解決策】 従来、多くの地域で担い手不足等に悩んでいるという声をうけ、その問題を解消するヒントとなる取り組みを実施してきた。昨年度委員アンケートを行うことで地域の実情が見えたため、それを足掛かりに取り組める事業を検討した。</p> <p>【成果と課題】 ・昨年度のアンケートを分析すると、近い将来の担い手については、各地域それぞれの手法で候補を選定できているという声が多く見られた。 ・一方で、取り上げて欲しいキーワードとして若年層の地域参加の意見が多く見られ、若年層は将来の担い手となりえることから、若者の地域参加促進は取り組む必要がある。 ・以上のことを踏まえて、若年層の参加が少ない状況については、地域により実情が異なることから、担い手育成事業として単独で行うのではなく、今後検討する各事業の中で複合的に取り入れていくこととした。</p>
備考	

(※令和 4 年度 西区事業評価書は令和 5 年 3 月中に確定)

西蒲区自治協議会（第8期）を振り返って

西蒲区自治協議会会長 長井 正雄

1. はじめに

20名の新規委員を迎え、新たな姿でスタートした第8期西蒲区自治協議会ですが、今までの活動を引継ぎつつも、新たな取組にチャレンジしてまいりました。

新型コロナウイルス感染症の影響により全体会や提案事業を中止せざるを得ないこともありましたが、地域課題の解決に向けた協議やさまざまな提案事業の実施に取り組んできました。

特に、今期は次期区ビジョンまちづくり計画策定年度であり、将来の西蒲区を見据え、ワークショップや各常任部会を中心に委員同士で協議を重ねました。専門的見地からの意見もあれば、普段地域で感じている意見もあるなど、幅広い方が集う区自治協議会ならではの協議ができたのではないかと感じております。

令和5年度から次期区ビジョンまちづくり計画が施行され、区自治協議会も新たなステージに進む段階であると考えております。次期西蒲区自治協議会でのさらなる発展のためにも、第8期での成果や取組をここに報告いたします。

2. 取組内容・成果・課題

(2) 全体会について

ア 会議運営方法の見直し

「部会・本会議の連携強化」と「西蒲区自治協議会全体の活性化」が課題として挙げたことから、部会を先に開催し、部会終了後の本会議の中で、先の部会内容を報告する形式から、当日部会で協議した内容を次回本会議で資料配布し、議事として各部会長から詳細を説明する形式に変更しました。

このように形式を変更することで、部会内容のさらなる共有と本会議での協議に厚みが出たのではないかと考えております。

また、第9期への委員への引継ぎのため、各常任部会で提案事業を通じた「効果」「残された課題」「今後の展望」について協議しました。その中で本会議にて協議したい議題を設定し、実際に本会議で諮りました。

このように部会から本会議へ議題を上げることで、他部会委員の視点からの意見を取り入れることができ、「部会・本会議の連携強化」と「西蒲区自

治協議会全体の活性化」へ一定の効果があったのではないかと考えております。

今後は、より活発に意見交換ができるような仕組みづくりが必要であると考えております。

イ 委員研修の実施

令和4年度に、「地域おこし協力隊」をテーマとした委員研修を開催しました。

委員より地域おこし協力隊について議論を重ねたいとの提案があり、協議の上、本題をテーマとした委員研修を開催することが決まりました。

地域おこし協力隊について理解を深めるとともに、隊員ならではの地域おこしの視点を学ぶことで、自らの地域の魅力・課題について改めて認識することを目的として開催しました。

普段、さまざまな地域活動に取り組んでいる委員が多くいるとは思いますが、地域おこし協力隊のような「よそ」から来た人が、どのような視点・考えで地域活動に関わっているのかを実感でき、これからの活動の刺激につながったのではないかと考えています。

本研修により、多様化する地域課題に取り組む区自治協議会委員としてのスキルアップにつながったと考えます。

(3) 部会・提案事業について

ア 総務部会

総務部会は、防犯・防災、教育、文化・スポーツ、公共交通など多岐にわたる分野を所管する部会です。

第8期では、防災をテーマにした事業と、スポーツ・レクリエーションに関連した事業に取り組みました。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、楽しみながら防災意識を高めるために、普及啓発動画の上映や防災演劇などを中心としたイベントを開催する予定でした。

令和4年度は、スポーツ分野に着目し、地域の一体感・活力を醸成することを目的とした、地域コミュニティ協議会対抗のスポーツ・レクリエーション交流会を開催しました。

イ 保健福祉部会

保健福祉部会は、健康や福祉の充実のほか、生活環境など区民生活に関する分野を所管する部会です。

第8期では、第6期、第7期に引き続き、認知症に関する事業に取り組みました。

令和3年度は、地域福祉の観点から、暮らしの中で困ったと思った際の場合面・事例を掲載し、相談先や制度がスムーズに区民に分かるよう配慮工夫した冊子「はじめての福祉相談きっかけBOOK～住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために～」を発行しました。

令和4年度は、医学博士加藤俊徳氏を講師に「年をとっても脳が元気になる～認知症をくいとめる10カ条～」と題した、脳医学の観点からの認知症予防に関する講演会を行いました。

ウ まちづくり・産業部会

まちづくり・産業部会は、主に観光や商工業、農業に関する分野を所管する部会です。

第8期では、「西蒲区の魅力発信」「西蒲区の一体感醸成」を目的とした動画制作に取り組みました。

各地区の魅力を地元の人から聞き取りつつ、「西蒲区の一体感醸成」「西蒲区の魅力発信」を目的として、ドローンを活用した「西蒲区の魅力発信動画」を制作・発信しました。

エ 広報部会

広報部会は、西蒲区自治協議会の活動・取組を区民に周知するための広報紙「じちきょう」を発行する活動をしています。

令和2年度の市政世論調査によれば、西蒲区内における区自治協議会の認知度が58.5%と市内で最も高い結果になり、手に取って読んでもらえるような紙面づくりのために、写真を多く用いることや、紙面レイアウトの変更を行ってきたことが、この結果につながったのではないかと考えます。

引き続き、西蒲区自治協議会を身近に感じていただけるような紙面作りを検討していくことが重要です。

オ 調整部会

西蒲区自治協議会の円滑な運営のために設置されている部会です。第8期においては、委員発案の議題や区ビジョンまちづくり計画について協議しました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3. おわりに

複雑化・多様化する地域課題に対応するために、多様な主体とのパートナーシップが重視されるなかで、区民等と市との「協働の要」である区自治協議会の役割はますます重要になるのではないかと考えております。

平成19年の政令市移行に伴う区制施行に合わせて設置されて以降、区自治協議会へ求められる役割が徐々に変化してまいりました。時代の変化にあわせ、より区自治協議会が発展するためにも、区自治協議会の役割や議論活性化の環境づくりなどを委員一人ひとりが考え続け、協議することが大事であるのではないのでしょうか。

一人ひとりが委員としてしっかりと自覚を持ち、地域課題の解決に向け、活発な議論を展開していくことができる第9期西蒲区自治協議会となることを期待しています。

令和4年3月16日

区自治協議会提案事業 事業評価書

西蒲区自治協議会(総務部会)

区分	内容
テーマ・事業名	住みよい・豊かな・活力あるまちづくりプロジェクト 【事業費予算 1,000千円】
事業目的・概要	<p>【目的】 総務部会が所管する分野(防犯・防災, 公共交通, 教育, 文化, スポーツなど)の調査研究を行い, 地域課題の解決に向けた取り組みを進め, 「豊かな自然, 歴史と文化のかおりに満ちあふれ, 人と人があたたかくつながるまち」を目指す。</p> <p>【概要】 動画の上映や防災演劇等を通じて, 楽しみながら防災意識を高める。</p>
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>○防災演劇の上演の予定が, 新型コロナウイルス感染症拡大のため, 中止となった。事業の概要は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 日時 令和4年2月6日(日) 午後2時～午後3時40分 ■ 会場 西川多目的ホール ■ 募集人員 300名(申込166名) ■ 内容 (1)防災啓発動画上映 内閣府作成の防災啓発動画の上映 (2)防災演劇上演 防災意識向上プロジェクトによる演劇「Be prepared ～大切な人のために出来ること～」の上演 (3)アフタートーク 防災士等による動画や演劇の振り返り等 (4)防災ブース 防災士や大学災害研究室によるPRブース
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>○総務部会では, 所管する分野(防犯・防災, 公共交通, 教育, 文化, スポーツなど)について, 西蒲区の課題等の意見交換を行った。</p> <p>○意見交換の中で, 地域コミュニティの希薄化, 防災の啓発, 親子の豊かな心をはぐくむといった地域課題が挙がり, その課題解決に向けた事業の検討を行った。</p> <p>○協議の結果, 今年度総務部会としては, 防災をテーマに日頃から住民の防災意識を高めるために, 楽しみながら気軽に防災意識を高められるように「防災演劇」をメインとした事業を行うことになった。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大により, 公演は中止することとなったが, コロナ禍にもかかわらず西蒲区内を中心に166名の参加申込があり, 市民の防災啓発事業への期待を感じることができた。</p>
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西蒲区自治協議会(保健福祉部会)

区分	内容
テーマ・事業名	あたたかな人の和でつながる輪事業 【事業費予算 1,000千円】
事業目的・概要	<p>【目的】 保健福祉部会が所管する分野(保健、福祉、生活環境など)の調査研究等を行い、地域課題の解決に向けた取り組みを進め、「人の和でつながる安心・安全なあたたかいまち」を目指す。</p> <p>【概要】 地域福祉の観点において、暮らしの中で困ったと思った際の場面・事例を多く掲載し、そこから相談先や制度がスムーズに市民に分かるよう配慮工夫した冊子の発行</p>
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>○はじめての福祉相談きっかけBOOK ～住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために～の作成</p> <p>■冊子内容 (1)成年後見制度について (2)高齢者虐待について (3)認知症(相談)について (4)認知症(受診)について (5)認知症(介護サービス)について (6)その他 (人生100年時代を生きるために今から心がけたいことについてなど)</p>
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>○保健福祉部会では、所管する分野(保健、福祉、生活環境など)について、西蒲区の課題等の意見交換を行った。</p> <p>○意見交換の中で、権利擁護の認知度の低さ、高齢化率の高さ、認知症理解への取り組みが少ないといった地域課題が挙がり、その課題解決に向けた事業の検討を行った。</p> <p>○協議の結果、保健福祉部会としては、地域福祉の観点において必要な事項(取り組み事項や相談先)が記載された冊子の作成を行うことになった。</p> <p>○冊子の作り方として、困った場面や事例を多く掲載することで、市民が相談先や制度をチャート形式で知ることができる。</p> <p>○手に取りやすい冊子とするために題名を「はじめての福祉相談きっかけBOOK」とした。</p> <p>○1号委員だけではなく、普段様々な福祉事業で活躍している委員が検討することで、区民目線の使いやすさと専門的な各種制度の内容の紹介をどちらも損なうことなく両立できた。</p> <p>○各施設に設置を依頼するだけではなく、家庭訪問などを行う際に配布を依頼したことで、より必要な人の手に渡る機会ができ、様々な形で活用していただけることが期待される。</p>
備考	

令和3年度

令和4年3月16日

区自治協議会提案事業 事業評価書

西蒲区自治協議会(まちづくり・産業部会)

区分	内容
テーマ・事業名	西蒲区お宝発信事業 【事業費予算 1,000千円】
事業目的・概要	<p>【目的】 まちづくり・産業部会が所管する分野(まちづくり、農業、商工業、観光など)の調査研究等を行い、地域課題の解決に向けた取り組みを進め、「魅力あふれる農水産物を配給するまち」及び「観光とレクリエーションのまち」を目指す。</p> <p>【概要】 「西蒲区の魅力発信の方法」「西蒲区の一体感の醸成」の2つをテーマとし、ドローンを活用した西蒲区の魅力を伝える動画を制作に向け準備を進める。</p>
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>○撮影候補地の見学 ■開催日時:令和3年10月4日(月) ■見学場所:西蒲区海岸線</p> <p>○西蒲区海岸線の勉強会 ■講師:新潟大学 名誉教授 立石 雅昭 氏 ■開催日時:令和3年11月16日(火)</p> <p>○コミュニティ協議会との撮影候補地に関する意見交換会の開催 ■対象:西蒲区内各コミュニティ協議会(9地区)</p> <p>○オープニング部分等の撮影</p>
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>○まちづくり・産業部会では、所管する分野(まちづくり、農業、商工業、観光など)について、西蒲区の魅力や課題等の意見交換を行った。</p> <p>○意見交換の中で、委員からは「西蒲区の魅力発信の方法」「西蒲区の一体感の醸成」の2つのテーマに関する意見が多く出たことから、これらの課題解決に向けた事業の検討を行った。</p> <p>○協議の結果、まちづくり・産業部会としては、ドローンを活用した西蒲区の魅力を伝える動画を制作し、それを活用した魅力発信を行うことになった。</p> <p>○西蒲区の魅力発信動画の制作に向けて、撮影候補地の視察や見識を深める研修を行い、コミュニティ協議会との意見交換会を通じて、撮影箇所や動画構成等について検討を行った。</p> <p>○来年度は、本格的に撮影に入り、動画を制作する予定。</p> <p>○「西蒲区の魅力発信の方法」「西蒲区の一体感の醸成」は大きな課題であるため、西蒲区内の各地域の魅力をお互いに分かるような動画の制作は課題解決に向けて、意義があると思われる。</p>
備考	

(※令和4年度 西蒲区事業評価書は令和5年3月中に確定)

(仮称) 各区自治協議会の活動・運営における課題解決に関する情報共有について (第8期から第9期へ)

第8期新潟市自治協議会会長会議

1 「区自治協議会の活動・運営に関するアンケート」について

(1) 概要

区自治協議会の活動・運営に関して、第8期委員が感じている課題を把握し、より良い協働の仕組みづくりに役立てることを目的に、令和4年度に実施したものです。(以下、委員アンケートとする。)

(2) 集計結果について

ア 回答数

8区合計 189名/251名 (回収率75.2%)

イ 設問1：活動や運営における課題 (3つ選択)

課題	回答数	
自治協議会の認知度向上	97	1位
幅広い年代の委員の確保	83	2位 (同数)
住民の意見・ニーズの把握方法	83	2位 (同数)
地域課題の解決に向けた検討や話し合いの技術	55	4位
委員としてのスキルアップ	49	5位
各コミ協との情報共有・連携	47	
委員間における地域課題の共有	46	
民間事業者やNPO等との連携	40	
全体会や部会の運営方法	36	
発言のしやすさ	18	
その他	7	
未回答	6	
計	567	

・回答数の多い上位3項目と4位以下で大きな差がつかしました。

ウ 各項目に関連する主な意見 (自由記載欄より抜粋・要約)

自治協議会の認知度向上 【97票】

- ・民間事業者やNPO、多様な主体との連携強化が認知度向上につながる。
- ・ワークショップをはじめ、地域に根付いた活動を継続することが、市民からの理解や賛同につながる。

幅広い年代の委員の確保 【83 票】

- 年代に偏りがあるので、年代別に委員数を設定してはどうか。
- 委員や年代が固定化され、新しいアイデアや取組が出にくい。
- 年代のみならず、幅広い職種・経験を有する方の選出が必要。

住民の意見・ニーズの把握方法 【83 票】

- 協議内容が地域課題の解決にどれだけ反映されたのか可視化しにくく、検討すべき内容や成果を把握しづらい。
- 一部会の所管分野が広範囲にわたっており、地域課題を絞りづらい。
- 自治協議会から地域コミュニティ協議会へと個々の地域団体との関係性構築による情報収集・提供しやすい環境づくりに取り組む必要がある。

地域課題の解決に向けた検討や話し合いの技術 【55 票】

- 提案を行う際はグループワークを盛り込めれば議論の密度が高くなる。
- 行政からの連絡、市政方針などに関する報告が多く、地域課題への理解を深める時間が少ない。

委員としてのスキルアップ 【49 票】

- 就任初期に自治基本条例、自治協議会条例、市の事業内容・予算・財政状況について研修で理解を深めることが必要。
- 委員研修やスキルアップにつながる機会が少ない。
- 諮問への対応や市・区への建議を行うために、相応の知識・思考力が必要。

その他の項目に関連する主な意見

- 地域課題の共有以前に、各地域や活動状況など現状共有が不十分なのではないか。そもそも「課題」の定義も捉え方が人それぞれであるため、共通認識が作りづらい。
- 自治協はより広範囲に区・市全域に関連する規模の事業に取り組むべきである。それには自治協だけでなく、地域の事業者や NPO など民間との連携が必須かと考える。
- 区内の産官学体など区づくりに参考となる特色ある業態の情報や仕組みについて、話を聞く機会を設けることで新たなアイデアに活かせるのではないか。
- Zoom や LINE などのツールを活用し、対面で集まらなくても遠隔で気軽に話し合える手法を取り入れていくべきではないか。

エ 設問2：課題解決に向けて必要な改善・取り組みの方向性（1つ選択）

改善・取り組み	回答数	
地域課題や住民ニーズの把握力強化に向けた取り組み	73	1位
広報・発信力強化に向けた取り組み	30	2位
全体会や部会の運営力強化に向けた取り組み	28	3位
地域団体等との連携強化に向けた取り組み	26	4位
自治協提案事業などの企画力強化に向けた取り組み	23	5位
その他	6	
未回答	3	
	189	

- ・回答数1位が突出し、2位以下は大きな差が付きませんでした。

オ 各項目に関連する主な意見（自由記載欄より抜粋・要約）

地域課題や住民ニーズの把握力強化に向けた取り組み 【73票】

- ・地域課題や住民ニーズの把握に取り組むための施策の1つとして、広報・発信力強化に向けた取り組みがあるのではないかと。この2つを両輪で進めていくことも重要ではないかと。
- ・学術機関や民間・NPO等との連携を通じて、アンケートやデータ分析方法の専門性や技術を高める。
- ・各々の出身母体と密に連携を図り、委員がパイプ役となって議論等を持ち帰り地域の声を集約したうえで報告する役割の徹底が必要。
- ・自治協議会全体で捉えている地域課題と各委員が日頃感じている地域課題のギャップを埋める努力がニーズ把握につながると感じている。
- ・ワークショップの積極的な導入など、委員間の情報共有、コミュニケーション作りの見直しを図る。

広報・発信力強化に向けた取り組み 【30票】

- ・Twitter、Instagram、ブログ等のSNS媒体をもっと活用すべき。
- ・地域の祭りやイベントなどに自治協議会として参加する機会を増やし、人との交流・つながりをつくる。
- ・アンケート調査を通じて存在をアピールできると考える。

全体会や部会の運営力強化に向けた取り組み 【28票】

- ・報告事項が多く、従来の目的である審議事項が少ないので、提案しやすい会議運営への改善が必要。

- 全体会で意見を言いづらいように感じるため、ワークショップを増やすなど、ざっくばらんに意見を言い合えるような雰囲気づくりが大切だと思う。
- 幅広い年代の確保、特に若い人材を増やすためには、開催時間の変更やオンライン等での新たな運営手法について、検討していく必要がある。

地域団体等との連携強化に向けた取り組み 【26票】

- テーマを1つ決め、各種地域団体からプロポーザル方式で企画提案をしてもらい、地域交流事業を行う。
- 社会福祉協議会、公民館等の機関や各種団体が協働して事業を行えば、市民にとって利便性の向上につながると思う。そのために、自治協議会がパイプ役となり、相互理解・情報共有に努めながら連携を強化していくことが重要である。
- 地域団体は明確な目的を持っている。目的を擦り合わせながら、各団体が得意分野を活かせるように、自治協議会が学校やPTA、NPO、ボランティア団体の活動を後押しする。

自治協提案事業などの企画力強化に向けた取り組み 【23票】

- 事業提案に向けた意見交換・ワークショップ、他区の事例共有等の機会を増やす。
- 委員は企画力や行動力に弱さを感じる。課題の具体化時点から必要に応じて民間事業者やNPOと一緒に意見交換等を行えば、問題の掘り出しから活動の速度も上がるように思える。
- 企画をするうえで、地域課題やニーズを分析する「調査の期間」と解決へ向けた事業を実施する「行動の期間」を設けシステム的に取り組む。

2 区自治協議会の課題に関する部会検討について

事務局からの提案事項（区民アンケート）や、委員アンケートで課題意識が高かった項目、区の実情に応じた検討すべき課題について、部会単位で検討・意見交換を令和4年度に実施しました。

実際に活動等に取り入れていくかどうかについては第9期委員の考えも必要になるため、検討は「決定」するのではなく「意見交換」の形式で行い、第8期委員からいただいた多様な意見を第9期委員に引継ぐこと目的に、次項より、各区の意見交換概要として本資料に掲載するものです。

(※北区自治協議会の意見交換概要は令和5年3月中に確定)

(※東区自治協議会の意見交換概要は令和5年3月中に確定)

(※中央区自治協議会の意見交換概要は令和5年3月中に確定)

(※江南区自治協議会の意見交換概要は令和5年3月中に確定)

(※秋葉区自治協議会の意見交換概要は令和5年3月中に確定)

(※南区自治協議会の意見交換概要は令和5年3月中に確定)

(※西区自治協議会の意見交換概要は令和5年3月中に確定)

(※西蒲区自治協議会の意見交換概要は令和5年3月中に確定)